

ネオフォルム

取付説明書 — ネオフォルムハイポート —

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>



警告

- 本製品を、物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的にして、改造・変更をしないでください。



注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 設置場所の確認をしてください。
 - ・施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
 - ・施工場所の気象条件(風、雪など)に合った製品かどうか確認してください。
 - ・建物の屋根からの雪の落下を、直接受けない位置かどうか確認してください。
 - ・強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上などの施工は避けてください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離(はくり)のおそれがあります。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が製品内(屋根・パネルなどで囲んだ内部)にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒や塗装劣化剥離(はくり)のおそれがあります。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋込み深さを確保してください。
- 崖縁などの高低差がある場所には設置しないでください。また、片流れタイプの場合、風当たりの強い場所ではサポートを取付けるとともに、風にあおられない向きに取付けてください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 桁には水勾配をつけないで、水平に施工してください。水勾配をつけると排水性が低下するおそれがあります。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 柱の移動は弊社指定範囲内にしてください。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

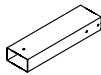
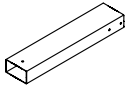
<基礎工事について>

⚠ 注意

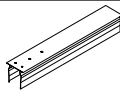
- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食の原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

■梱包明細表

①柱セット

名 称	略 図	員 数			
		標準2本	標準3本	ロング2本	ロング3本
標準柱		2	3	—	—
ロング柱		—	—	2	3

②梁セット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	3本入
梁		2	3

③ブラケットセット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	3本入
ブラケット		2	3
ブラケット補強材		4	6
カラー		2	3

4 桁セット

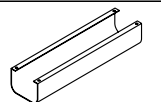
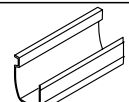
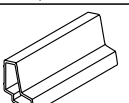
名 称	略 図	員 数		
		13型用	51型用	57型用
桁 L		1	1	1
桁 R		1	1	1
中骨		6	24	27
屋根材押え		4	16	18

5 アーチセット

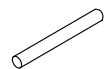
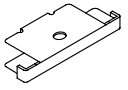
名 称	略 図	員 数								
		アーチセットB			アーチセットC			中間アーチセット		
		24型用	27型用	30型用	24型用	27型用	30型用	24型用	27型用	30型用
端部アーチ		2	2	2	2	2	2	—	—	—
中間アーチ		2	2	2	3	3	3	5	5	5
端部アーチカバー		2	2	2	2	2	2	—	—	—
中間アーチカバー		2	2	2	3	3	3	5	5	5
横樋		1	1	1	1	1	1	—	—	—
5-①φ4×12トラスタッピンネジ3種		46	46	46	61	61	61	77	77	77
5-②φ4×12トラスタッピンネジ2種 PW+樹脂W		44	53	75	60	66	93	60	66	93

■梱包明細表 つづき

⑥連棟アーチセット

名 称	略 図	員 数								
		連棟アーチセットA			連棟アーチセットB			連棟アーチセットC		
		24型用	27型用	30型用	24型用	27型用	30型用	24型用	27型用	30型用
端部アーチ		2	2	2	2	2	2	2	2	2
中間アーチ		1	1	1	2	2	2	3	3	3
連棟アーチカバー		1	1	1	1	1	1	1	1	1
中間アーチカバー		1	1	1	2	2	2	3	3	3
横樋		1	1	1	1	1	1	1	1	1
桁スリーブA		2	2	2	2	2	2	2	2	2
桁スリーブB		2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑥-①φ4×12トラスタッピンネジ3種		30	30	30	46	46	46	61	61	61
⑥-②φ4×12トラスタッピンネジ2種 PW+樹脂W		35	40	56	44	53	75	60	66	93

⑦片柱部品セット

名 称	略 図	員 数	
		2本分	3本分
アンカー棒		2	3
梁キャップ		4	6
梁・桁固定金具		8	12
梁・桁固定金具カバー		8	12

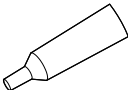
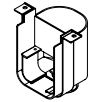
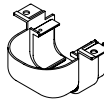
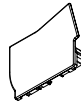
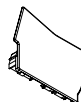
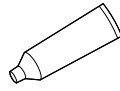
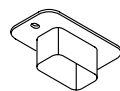
⑦つづき

名 称	略 図	員 数	
		2本分	3本分
コーナークバー		2	3
⑦-① M8×70六角ボルト		4	6
⑦-② M8×25六角ボルトPW+SW		14	21
⑦-③ M8×30四角ボルト		8	12
⑦-④ M5×12ナベ小ネジPW+SW		4	6
⑦-⑤ M8用六角ナット		12	18
⑦-⑥ M8用バネ座金		12	18
⑦-⑦ M8用平座金		16	24
⑦-⑧ φ4×13ナベテクスネジ		12	18

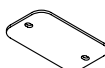
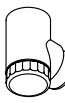
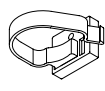
⑧縦樋セット

名 称	略 図	員数
縦樋		1

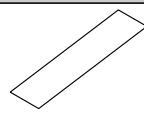
9 屋根部品セット

名 称	略 図	員 数	
		標準	連棟用
ブチルシーリング材		1	1
注意シール		1	—
横樋キャップA		1	1
横樋キャップB		1	1
桁キャップL		2	—
桁キャップR		2	—
裏板		4	4
接着剤		1	1
雨樋アタッチメント		2	2

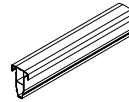
9 つづき

名 称	略 図	員 数	
		標準	連棟用
雨樋孔ふさぎキャップ		2	2
アタッチメントパッキン		4	4
92度エルボ		2	2
ドレンエルボ		1	1
でんでん		3	3
スペーサー		2	2
9-① φ4×19ナベテクスネジ		3	3
9-② M5×12ナベ小ネジPW+SW		4	4
9-③ φ4×12トラスタッピンネジ3種		8	8
9-④ φ4×10トラスタッピンネジ1種		8	4
9-⑤ φ4×13ナベテクスネジ		—	24
9-⑥ M5×16ナベ小ネジPW+SW		2	2
取付説明書	—	1	—
取扱説明書	—	1	—

10 屋根材セット

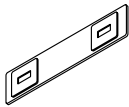
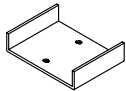
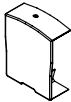
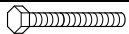
名 称	略 図	員 数	
		4枚入	5枚入
屋根パネル		4	5

11 M合掌棟木

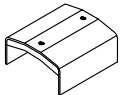
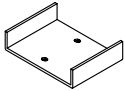
名 称	略 図	員 数		
		13型用	51型用	57型用
M合掌棟木		1	1	1

■梱包明細表 つづき

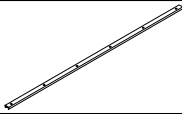
12 M合掌部品セット

名 称	略 図	員 数		
		13型用	51型用	57型用
梁連結材		4	4	6
M合掌棟木固定金具		2	4	5
M合掌キャップ		2	2	2
12-① M8×120六角ボルト		4	4	6
12-② M8用袋ナット		4	4	6
12-③ M8用平座金		8	8	12
12-④ M8用バネ座金		8	8	12
12-⑤ φ4×13ナベテクスネジ		8	12	14

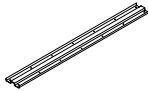
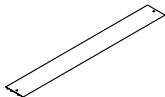
13 M合掌連棟部品セット

名 称	略 図	員 数
M合掌連棟カバー		1
M合掌棟木固定金具		1
13-① φ4×13ナベテクスネジ		4

14 スタンダードスタイル化粧材

名 称	略 図	員 数
前面化粧材 L=1850		2
隙間埋め材 L=1850		2
位置出し用Lアングル L=82		2
14-① φ4×13ナベピアスネジ		6
14-② φ4×13ナベピアスネジ		8
14-③ φ4×25トラスパラスネジ		12

15スタンダード・アーキモダン 木調スタイル化粧材

名 称	略 図	員 数
前面部化粧材 L=1850		2
化粧パネル受け L=1850		2
木調パネル L=1850		2
位置出し用Lアングル L=82		2
15-① φ4×13ナベピアスネジ		12
15-② φ4×13ナベピアスネジ		8
15-③ φ4×8トラスタッピンネジ3種		4
15-④ φ4×13ナベピアスネジ		28

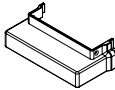
16アーキモダンスタイル化粧材

名 称	略 図	員 数
前面部化粧材 L=1850		2
位置出し用Lアングル L=82		2
16-① φ4×13ナベピアスネジ		6
16-② φ4×13ナベピアスネジ		8

17ナチュラルスタイル化粧材

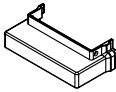
名 称	略 図	員 数
前面部化粧材 L=1700		2
隙間埋め材 L=1700		2
位置出し用Lアングル L=82		2
17-① φ4×13ナベピアスネジ		6
17-② φ4×13ナベピアスネジ		8
17-③ φ4×25トラスパアスネジ		12

18スタンダードスタイル用柱キャップ

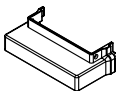
名 称	略 図	員 数
スタンダードスタイル用柱キャップ		2
18-① φ4×16サラピアスネジ		4

■梱包明細表 つづき

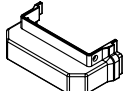
19 アーキモダン 木調スタイル用柱キャップ

名 称	略 図	員 数
スタンダードスタイル用柱キャップ		2
19-① φ4×16サラピラスネジ		4

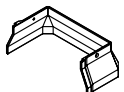
20 ナチュラル・スタンダードスタイル用柱キャップ

名 称	略 図	員 数
ナチュラル・スタンダードスタイル用柱キャップ		2
20-① φ4×16サラピラスネジ		4

21 アーキモダンスタイル用柱キャップ

名 称	略 図	員 数
アーキモダンスタイル用柱キャップ		2
21-① φ4×16サラピラスネジ		4

22 ナチュラルスタイル用巾木

名 称	略 図	員 数
巾木		2
22-① φ4×16サラピラスネジ		4

23 タイル下地セット

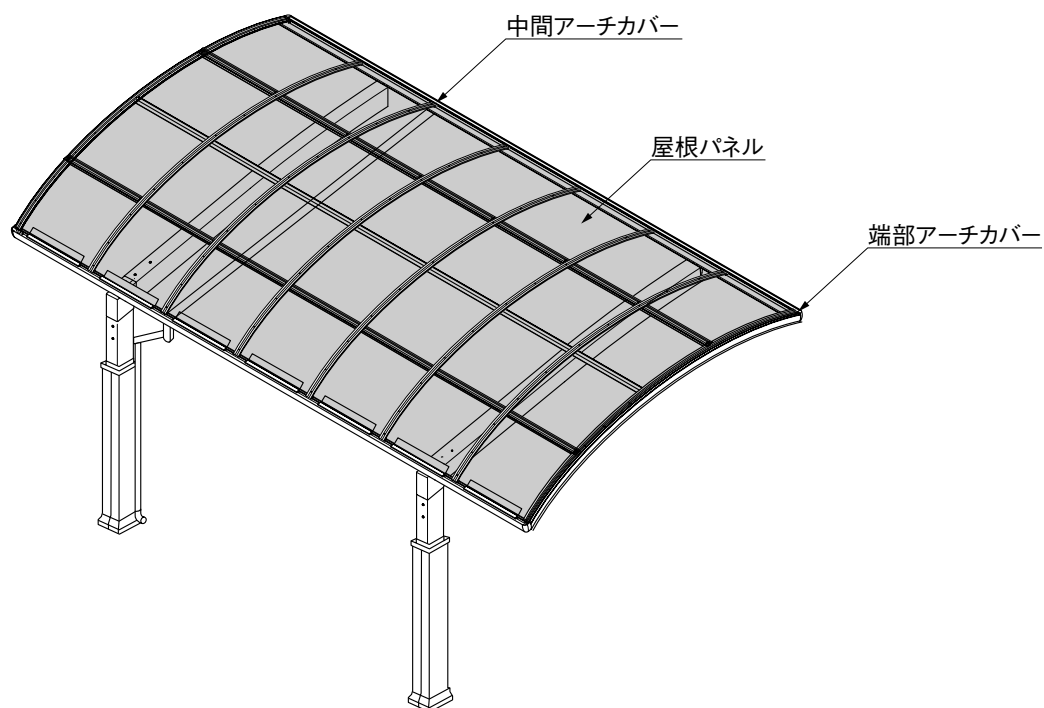
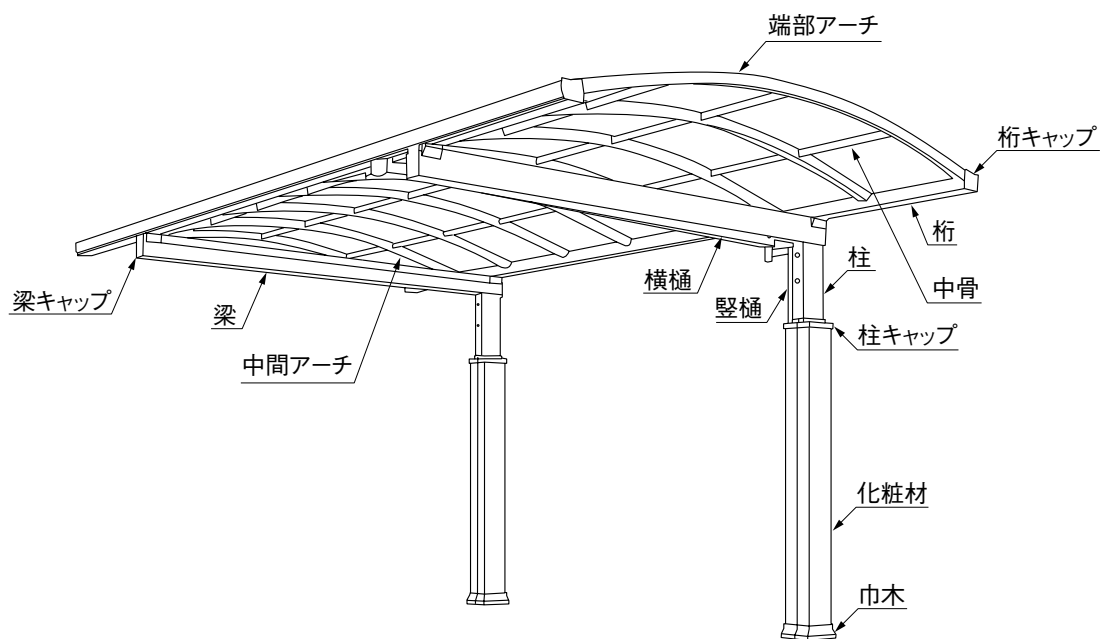
名 称	略 図	員 数
タイル下地		1
クッション材		1
23-① φ4×16サラピラスネジ		3

INDEX

1 基本寸法と各部の名称	10
1. 各部の名称	10
2. 基本寸法	11
2 基本の施工方法	15
1. 基礎の施工	15
2. 柱化粧材の取付け	15
3. 柱の施工	19
4. ブラケットの取付け	20
5. 梁の取付け	21
6. 桁の取付け	22
7. 端部アーチ・中間アーチの取付け	24
8. 中骨の取付け	25
9. 屋根パネルの取付け	25
10. 巾木の取付け	26
11. 横樋の取付け	27
12. 縦樋の取付け	29
13. 桁キャップの取付け	30
14. 注意シールの貼付け	30
3 縦連棟の施工方法	31
1. 基礎の施工	31
2. 桁の連結	32
3. 連棟部分の組付け	33
4 M合掌の施工方法	34
1. 梁連結材の取付け	34
2. M合掌棟木の取付け	34
3. M合掌キャップの取付け	35
4. 縦連棟M合掌の場合の施工	35
5 タイル下地の取付け	36
1. タイル下地の取付け オプション	36

1 基本寸法と各部の名称

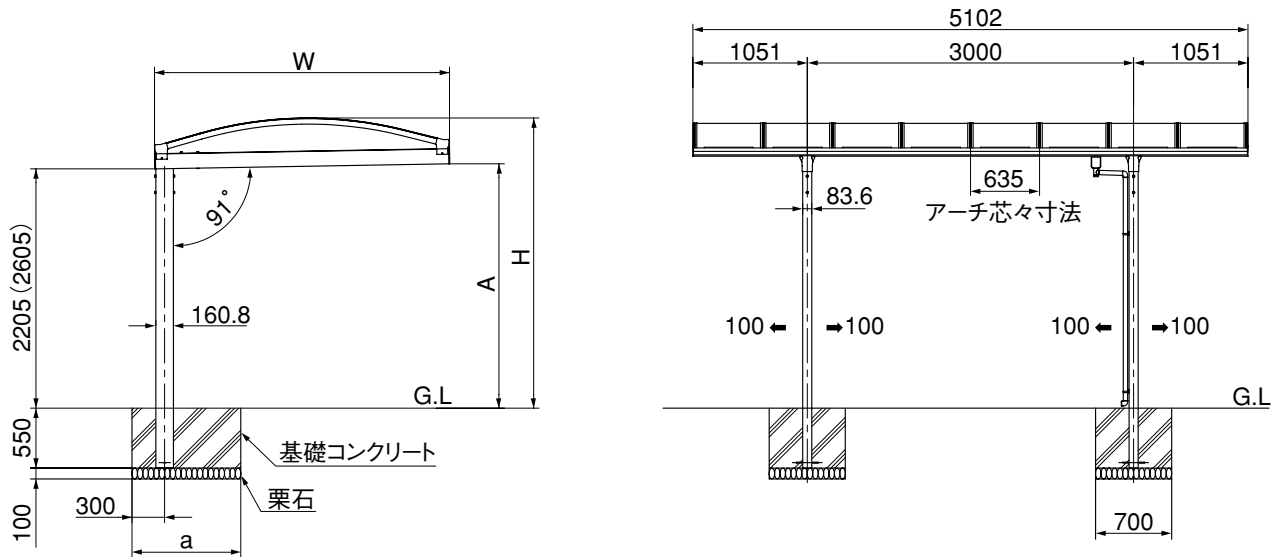
1. 各部の名称



2. 基本寸法

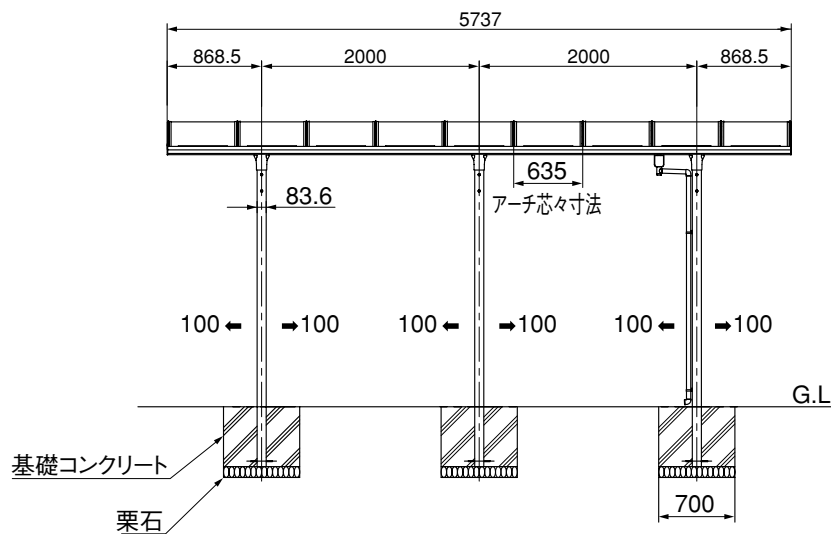
※図はベーシックスタイル標準仕様を示します。
() 内はロング柱仕様を示します。

2-1 奥行き51タイプ



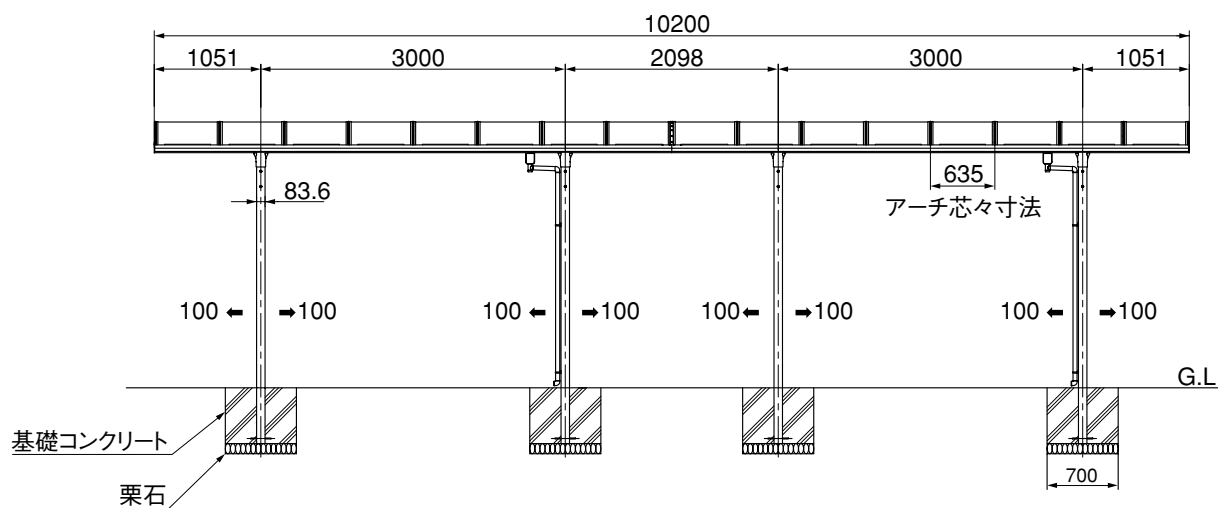
サイズ	W	A	H	a
24	2414	2242 (2642)	2626 (3026)	800
27	2714	2247 (2647)	2669 (3069)	800
30	3014	2252 (2652)	2711 (3111)	1000

2-2 奥行き57タイプ

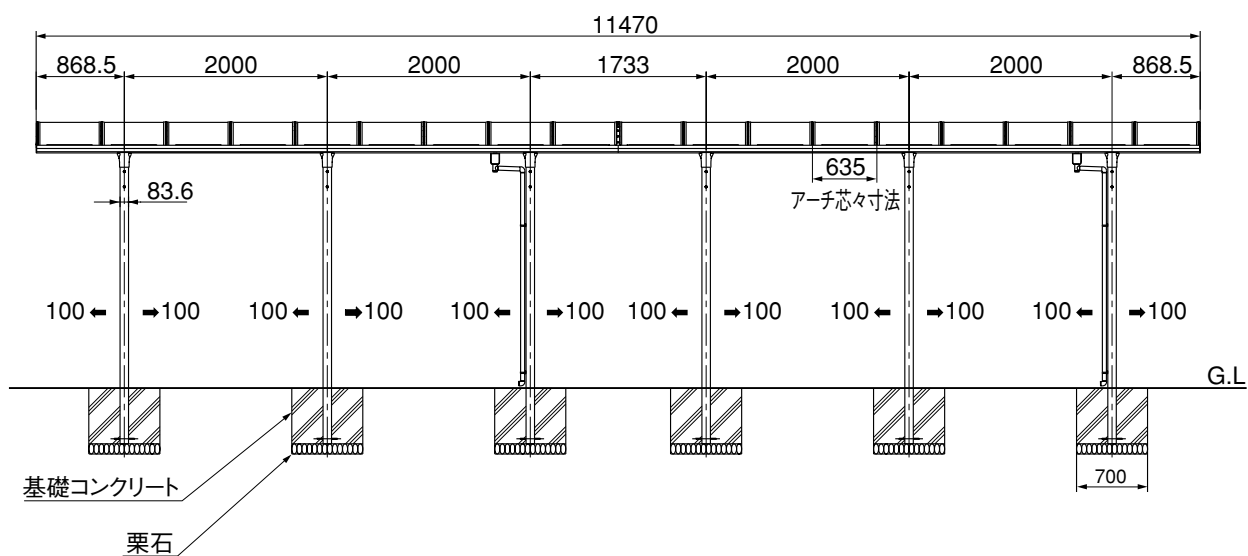


2. つづき

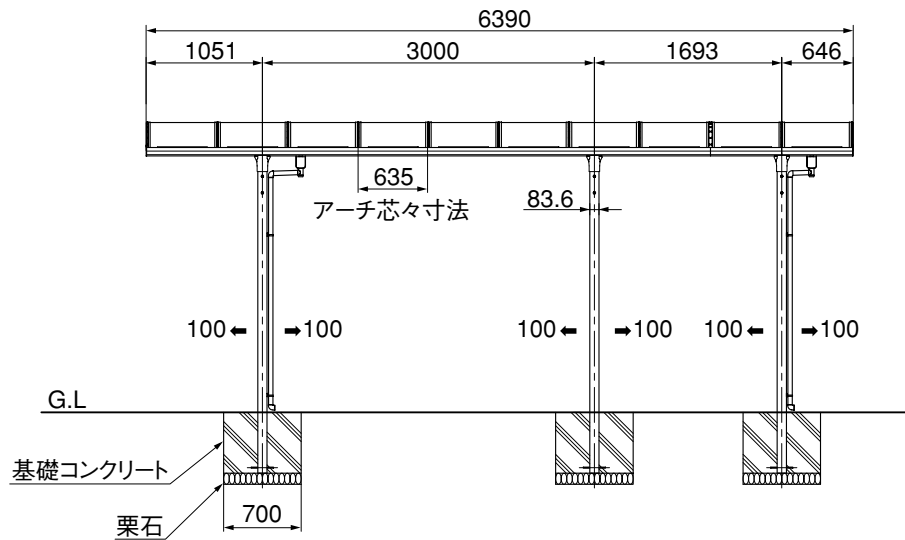
2-3 奥行き51縦連棟タイプ



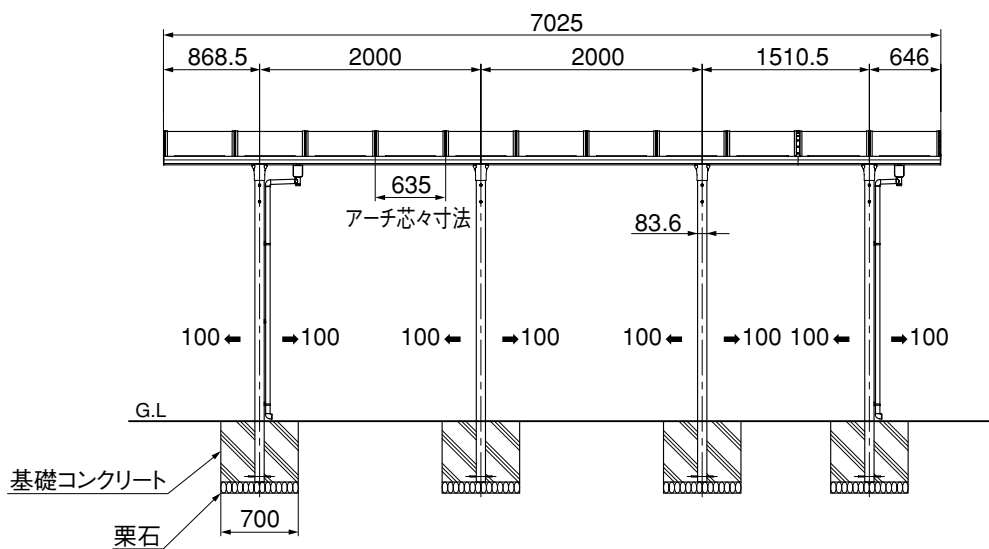
2-4 奥行き57縦連棟タイプ



2-5 奥行き51+13延長タイプ

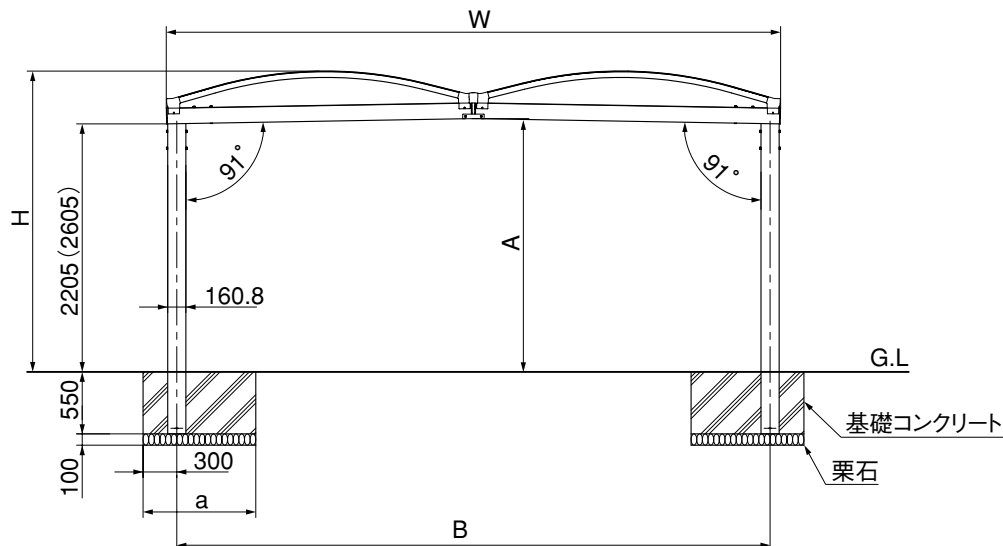


2-6 奥行き57+13延長タイプ



2. つづき

2-7 M合掌



サイズ	W	A	H	B	a
24・24	4848	2242 (2642)	2626 (3026)	4661	800
27・27	5448	2247 (2647)	2669 (3069)	5261	800
30・30	6048	2252 (2652)	2711 (3111)	5861	1000

2-8 ナチュラルスタイル、アーキモダンスタイル、スタンダードスタイルの納まり

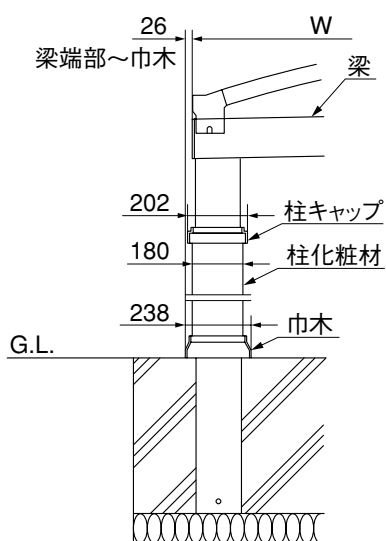


図2-1 ナチュラルスタイルの場合

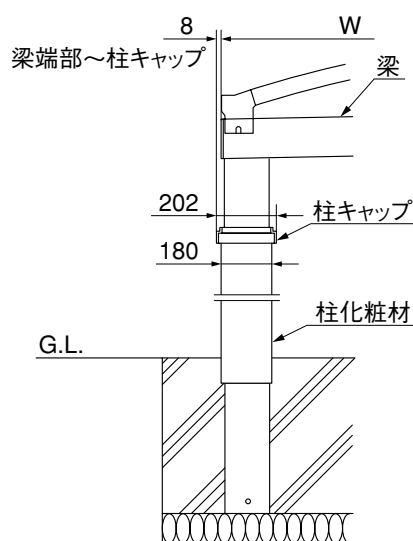


図2-2 アーキモダンスタイル・スタンダードスタイルの場合

ポイント

- 隣地境界際に施工する場合、梁端部から飛び出す寸法を考慮してください。

2 基本の施工方法

1. 基礎の施工

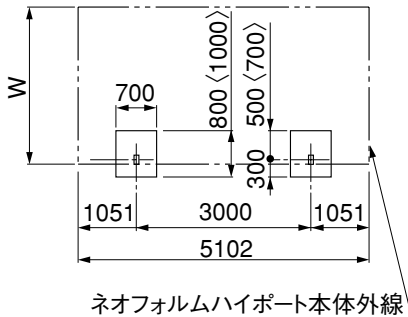


図1-1 51サイズ

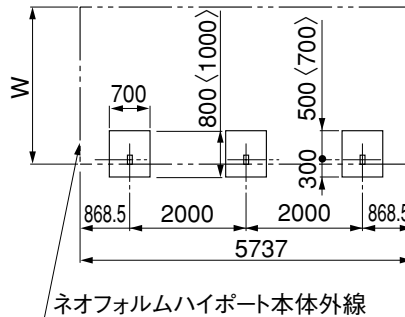


図1-2 57サイズ

サイズ呼称	W
24	2414
27	2714
30	3014

- ① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

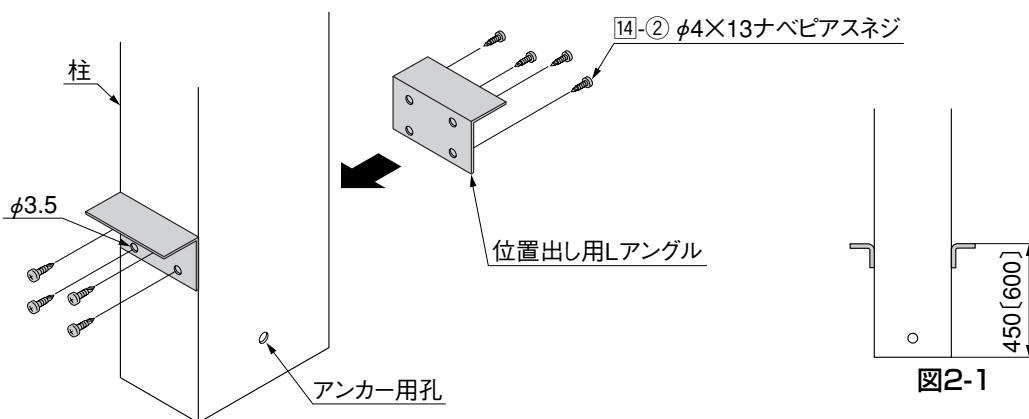
補足

- 柱の移動は±100mm以内です。
- 〈 〉内寸法は30サイズの場合を示します。

2. 柱化粧材の取付け

※スタンダードスタイルの場合です。その他のスタイルも同様の作業です。
※〔 〕内寸法はナチュラルスタイルの場合です。

2-1 位置出し用Lアングルの取付け



補足

- ベーシックスタイルの場合は、柱化粧材の取付けは必要ありません。

- ① 図2-1を参照して、柱に位置出し用Lアングルをφ3.5の下孔をあけて14-②で固定してください。

2. つづき

2-2 ナチュラルスタイル、アーキモダンスタイル、スタンダードスタイルの場合

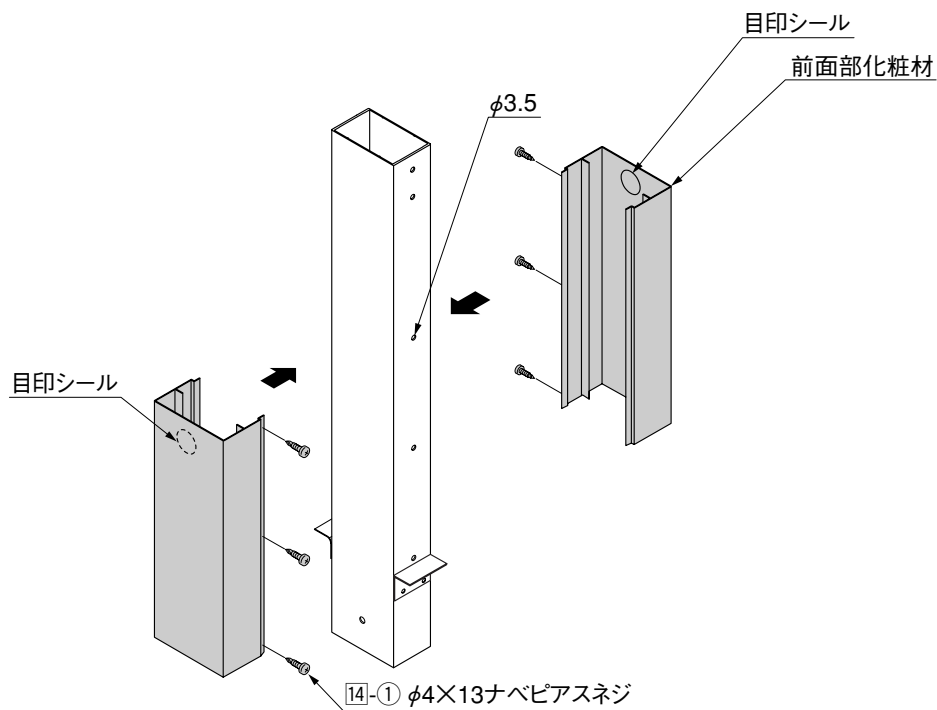


図2-2

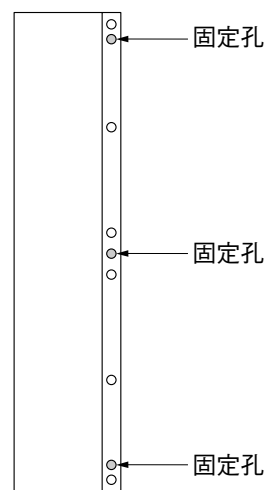


図2-3

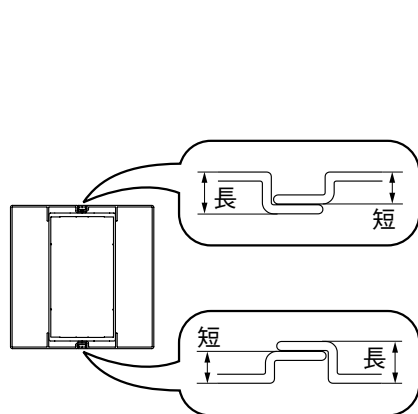


図2-4 柱断面図

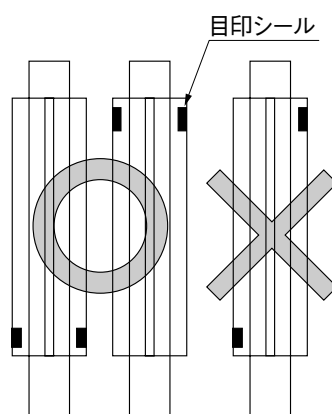


図2-5

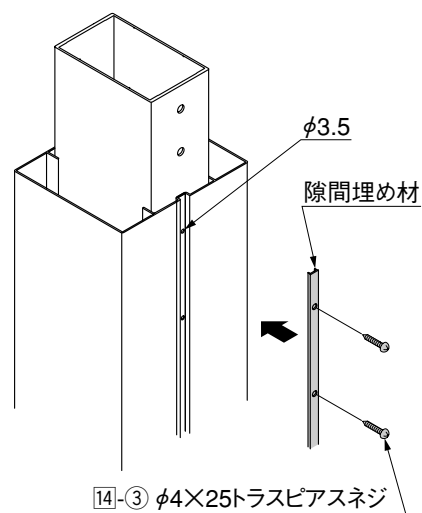


図2-6

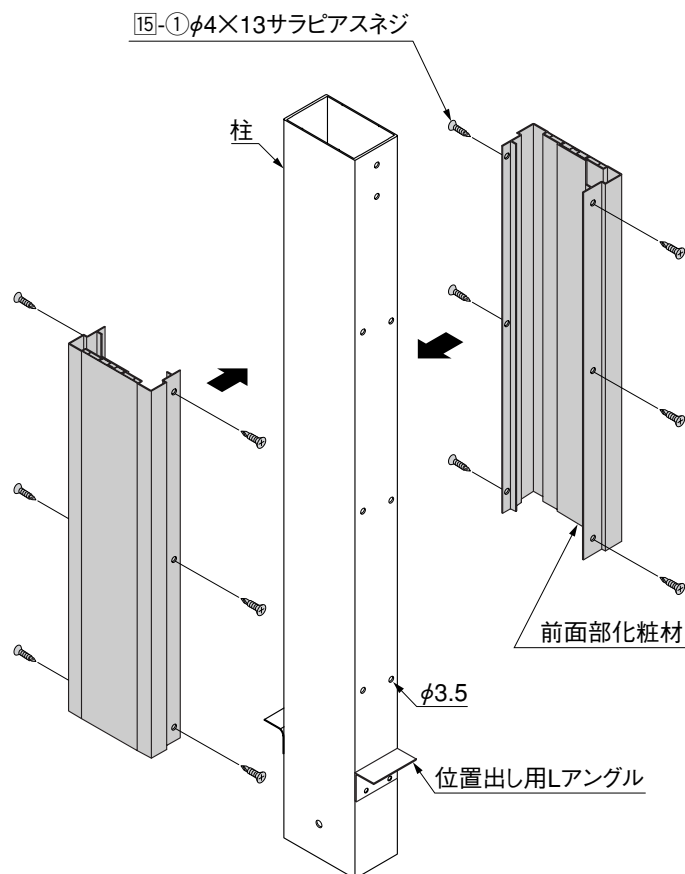
- ① 位置出し用Lアングルの上に前面部化粧材を乗せて、φ3.5の下孔をあけてから14-①で固定してください。（図2-2参照）

ポイント

- 前面部化粧材には向きがあります。図のように目印シールが同一方向になるような向きで固定してください。（図2-5参照）
 - スタンダードおよびナチュラルスタイル前面部化粧材を固定する場合、両端から2番目と中心3ヶ所づつを固定してください。他の孔は、隙間埋め材を固定する際のネジの逃げになります。（図2-3参照）
- ② スタンダードスタイルおよびナチュラルコートスタイルの場合は、前面部化粧材と側面部化粧材の間に隙間埋め材をφ3.5の下孔をあけて14-③で固定してください。（図2-6参照）

2. つづき

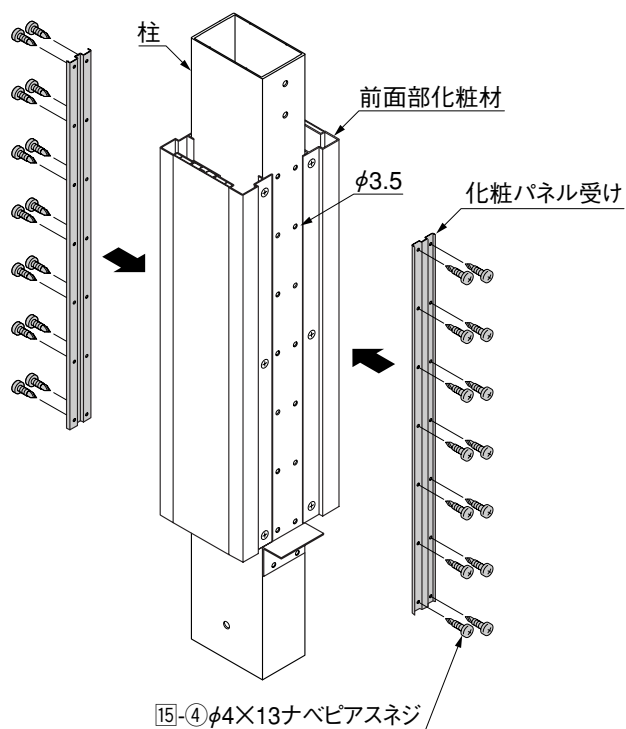
2-3 アーキモダン木調スタイル、スタンダード木調スタイルの場合



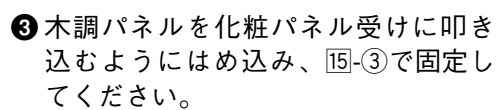
- ① 位置出し用Lアングルの上に前面化粧材を乗せ、φ3.5の下孔をあけて⑮-①で固定してください。

ポイント

- 前面化粧材の固定にはサラ加工が施してある孔を使用してください。



- ② 化粧パネル受けと柱のセンター線をあわせ、φ3.5の下孔をあけて⑮-④で固定してください。



❶ 柱キャップをφ3.5の下孔をあけて、
 18-①で柱に取付けてください。

3. 柱の施工

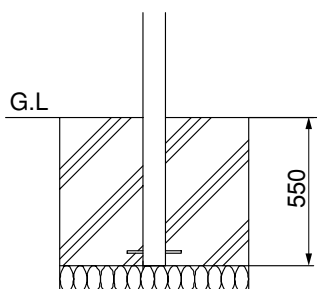
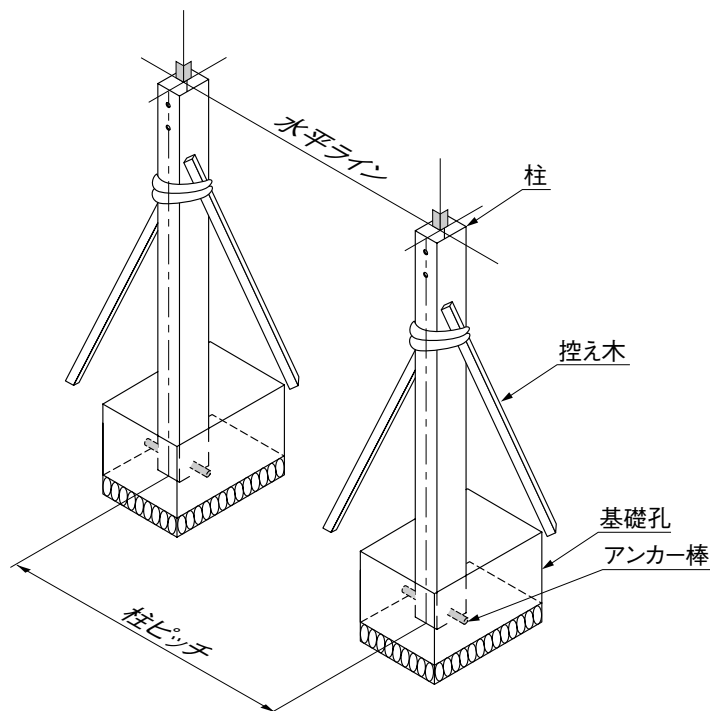


図3-1 ベーシックスタイルの場合

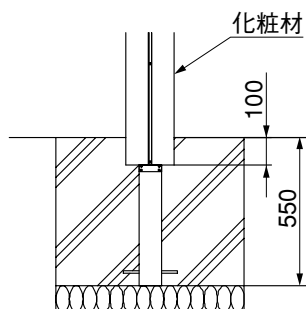
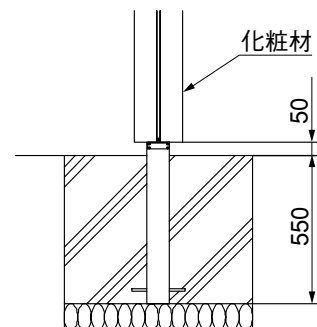
図3-2 スタンダードスタイル・
アーキモダンスタイルの場合

図3-3 ナチュラルスタイルの場合

- ❶ 柱にアンカー棒を差込み、柱を基礎孔に設置してください。

補足

- 柱の埋込深さは各スタイルとも550mmですが、化粧材の納まりは各スタイルで異なります。(図3-1, 図3-2, 図3-3参照)

- ❷ 控え木などで柱が自立できるようにして、「1.基本寸法と各部の名称 2.基本寸法図」で柱ピッチを確認してください。

- ❸ 隣の柱との高低差、柱の倒れがないよう調整してください。

ポイント

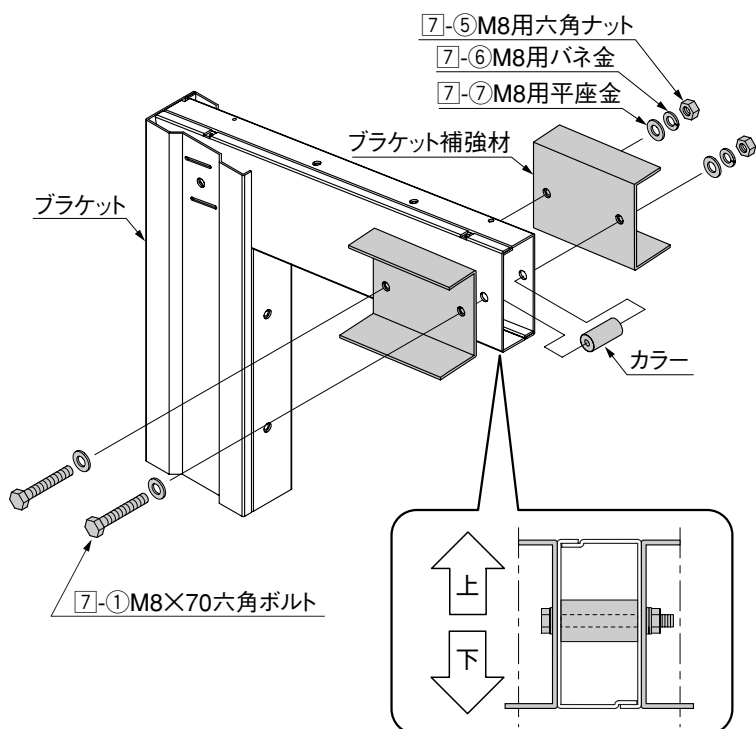
- 隣の柱との高低差や倒れがあると、桁が取付きません。また、排水性が低下するおそれがあります。

- ❹ 基礎孔にコンクリートを打設してください。

ポイント

- コンクリート打設後に施工寸法の狂いが生じていないか確認してから養生してください。
- 養生期間中、柱内部に雨水が入らないようにしてください。

4. ブラケットの取付け



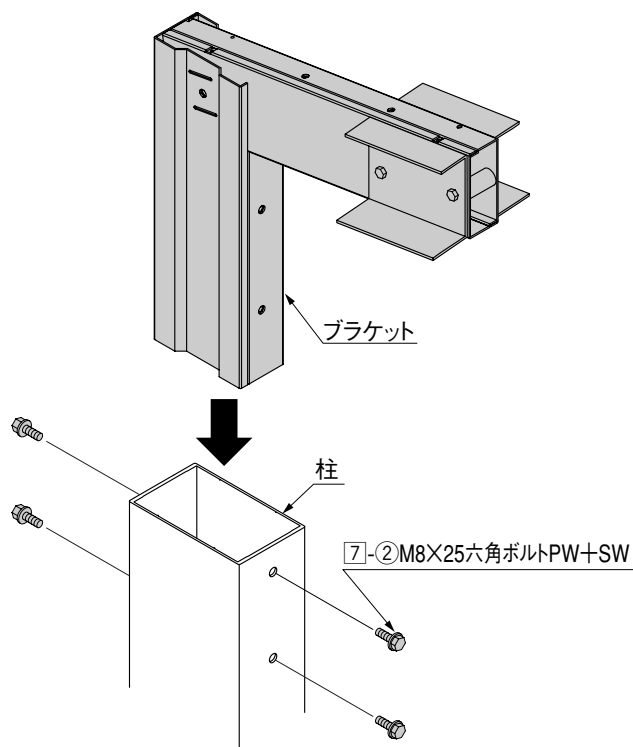
ポイント

- 基礎コンクリートが硬化していることを確認してください。

- 1 ブラケットにブラケット補強材を7-①、7-⑤、7-⑥、7-⑦で先端側のみカラーを使用して、取付けてください。

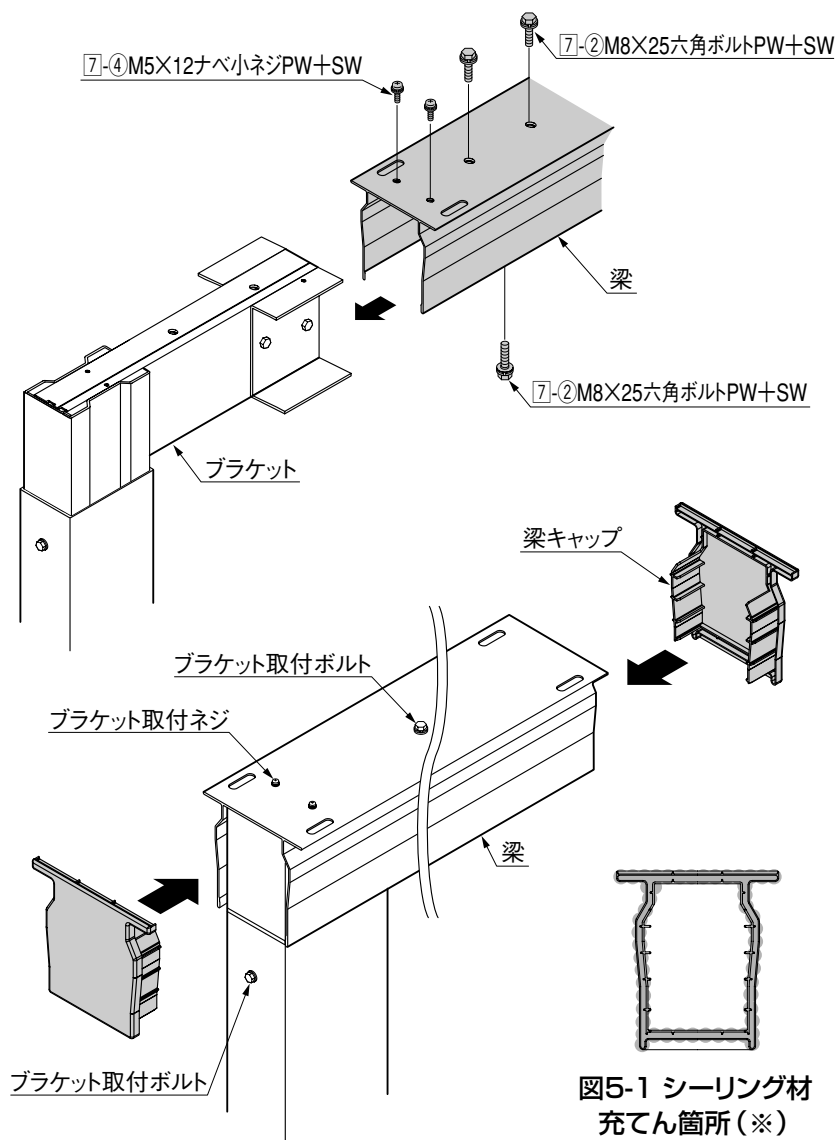
ポイント

- ブラケット補強材には上下方向があります。下側の出っ張りが大きくなる方向で取付けてください。取付け方向を間違えると梁が取付きません。



- 2 ブラケットを柱に差込んで、7-②で取付けてください。

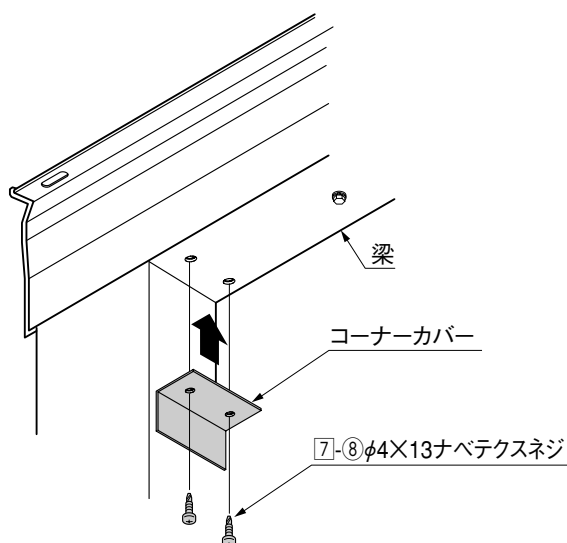
5. 梁の取付け



- ① 梁をブラケットの奥まで差込んでください。
- ② 7-2、7-4で梁とブラケットを固定してください。
- ③ 梁キャップにシーリング材を充てんして、梁に取付けてください。
(図5-1参照)

ポイント

- 指定の個所にシーリングしてください。(※)
- 同梱のブチルシーリングを使用してください。
- 梁キャップが梁に取付けづらい場合は、一旦、ブラケット取付ボルトとブラケット取付ネジをゆるめてから、梁キャップを取付けてください。
取付後は、ブラケット取付ボルトとブラケット取付ネジを締め込んでください。



- ④ コーナーカバーを7-8で梁に取付けてください。

6. 桁の取付け

6-1 横樋取付位置の決定

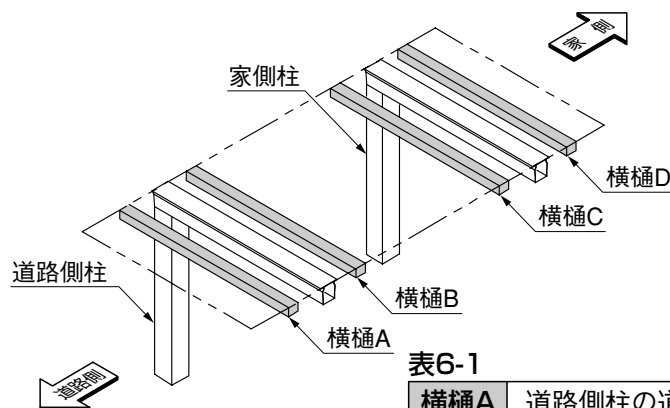


表6-1

横樋A	道路側柱の道路側面
横樋B	道路側柱の家側面
横樋C	家側柱の道路側面
横樋D	家側柱の家側面

- ① 横樋の取付位置を図の横樋A・横樋B・横樋C・横樋Dから決定してください。

6-2 桁取付方向の確認

(1) 横樋取付位置が横樋A, 横樋Cの場合

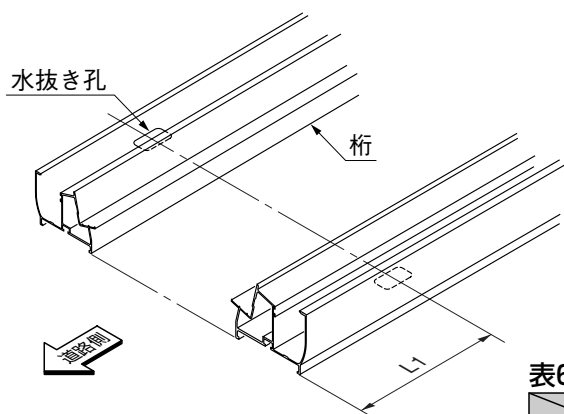


表6-2

呼称	寸法	L1
L51		703
L57		520

- ① 表6-2を参照して、道路側の桁端部から水抜き孔までの寸法がL1の数値になる方向で桁を取付けてください。

(2) 横樋取付位置が横樋B, 横樋Dの場合

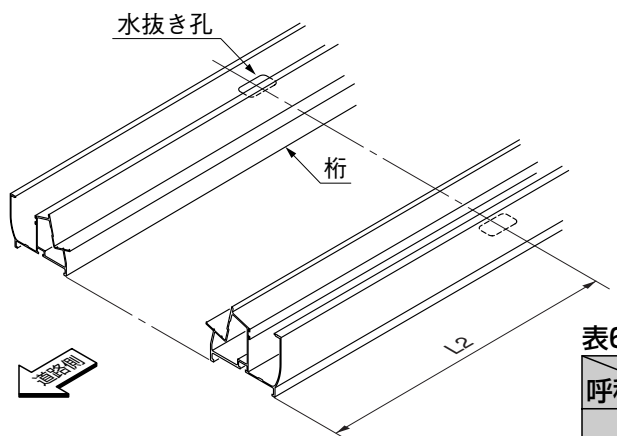


表6-3

呼称	寸法	L2
L51		1395
L57		1213

- ① 表6-3を参照して、道路側の桁端部から水抜き孔までの寸法がL2の数値になる方向で桁を取付けてください。

6. つづき

6-3 桁の取付け

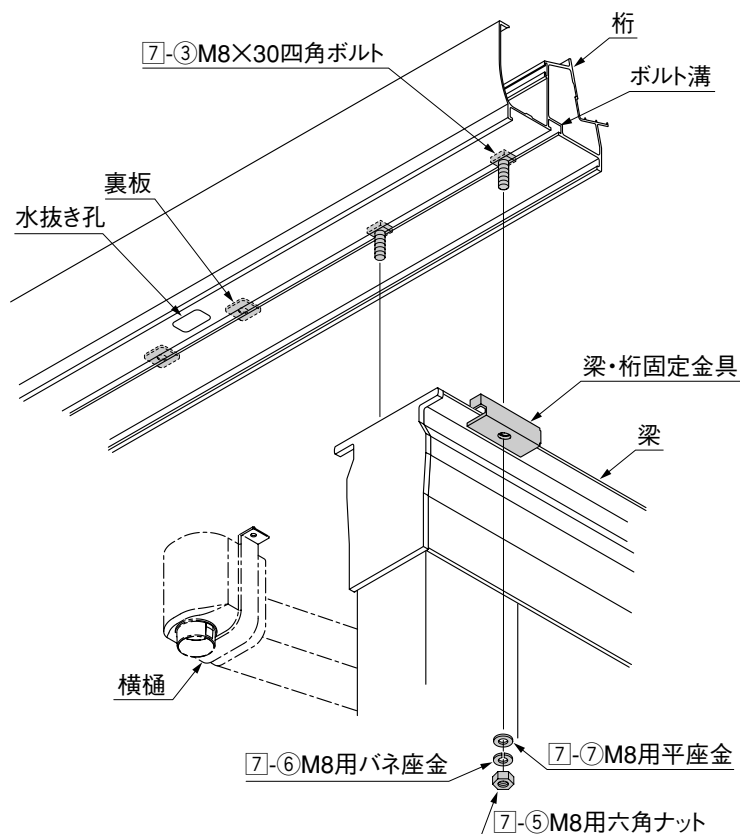


図6-1 横樋取付位置Bの場合

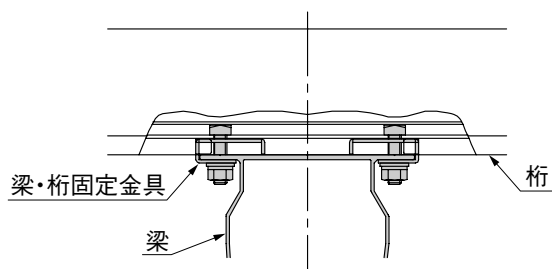


図6-2 梁・桁納まり図

- ① 7-3を2本、桁下面のボルト溝に取付けてください。
- ② 桁下面のボルト溝に横樋取付用の裏板を2個、取付けてください。

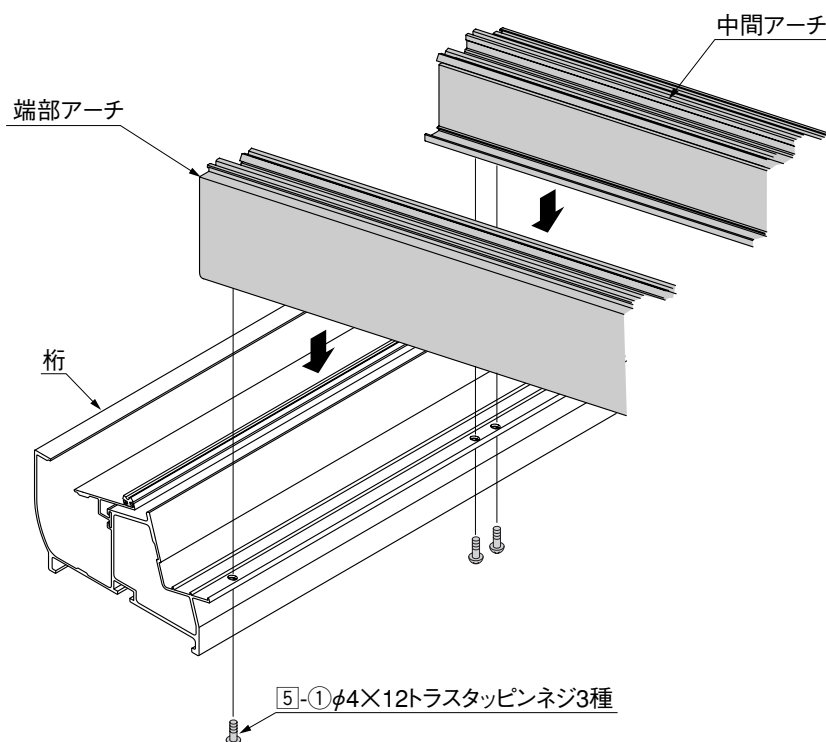
ポイント

- 横樋取付位置によってボルト溝への裏板と7-3の取付順序が変わります。事前に決定した横樋取付位置に裏板が2枚入っていることを確認してください。
- ③ 梁の長孔加工部に梁・桁固定金具を取付けてください。
 - ④ 桁を梁の上に乗せて、7-3が梁・桁固定金具と梁の長孔加工部を貫通するように設置してください。(図6-2参照)
 - ⑤ 柱から桁端部までの寸法が家側・道路側で均等になるよう調整してください。
 - ⑥ 7-5、7-6、7-7を7-3に仮止めしてください。

補足

- 梁・桁連結部は、端部アーチ、中間アーチ取付後に屋根部の直角度を確認してから固定してください。

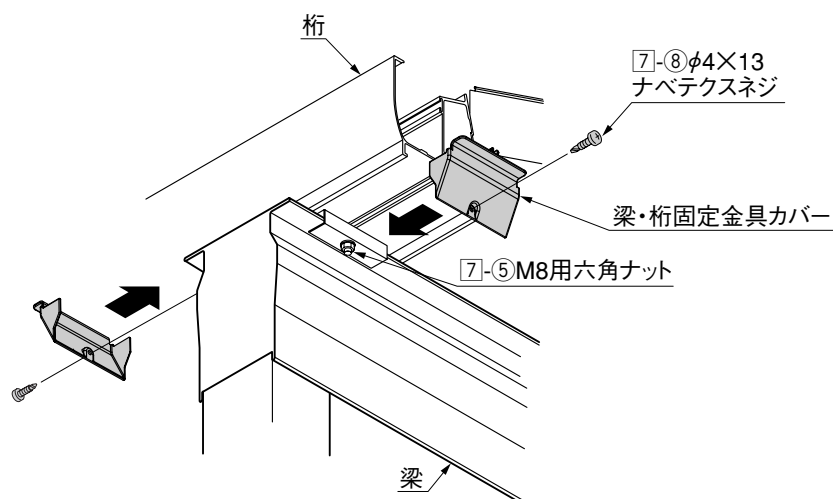
7. 端部アーチ・中間アーチの取付け



- ① 桁に端部アーチ・中間アーチを5-①で取付けてください。
- ② 端部アーチ・中間アーチが桁に対して直角になっているか確認してください。

ポイント

- 端部アーチ・中間アーチが桁に対して直角でないと屋根材を正しく施工することができません。



- ③ 梁・桁連結部の7-⑤を本締めしてください。
- ④ 桁下面のボルト溝に、梁・桁固定金具カバーの突起部を差し込んで、梁に7-⑧で固定してください。(図7-1参照)

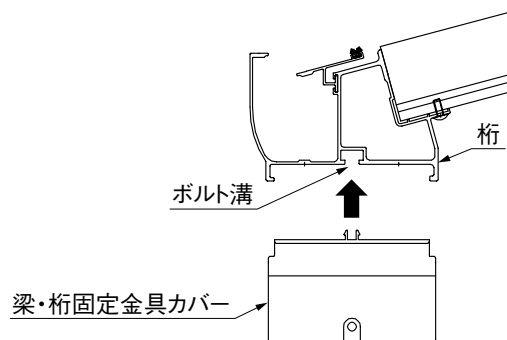
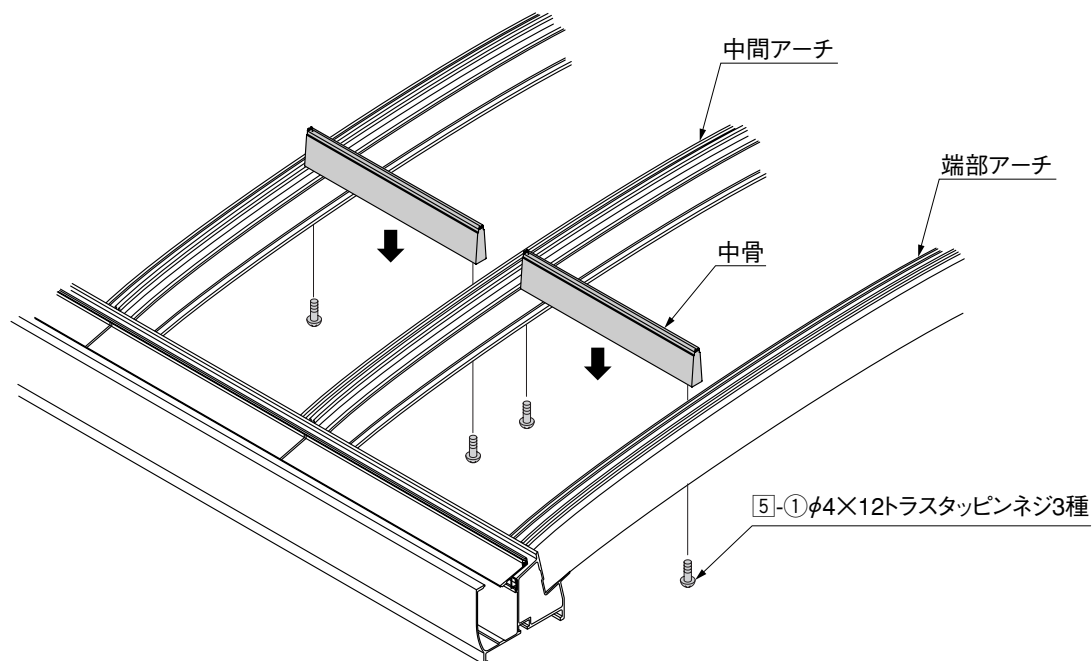


図7-1

8. 中骨の取付け



- ❶ 中骨を端部アーチと中間アーチに[5]-①で取付けてください。

9. 屋根パネルの取付け

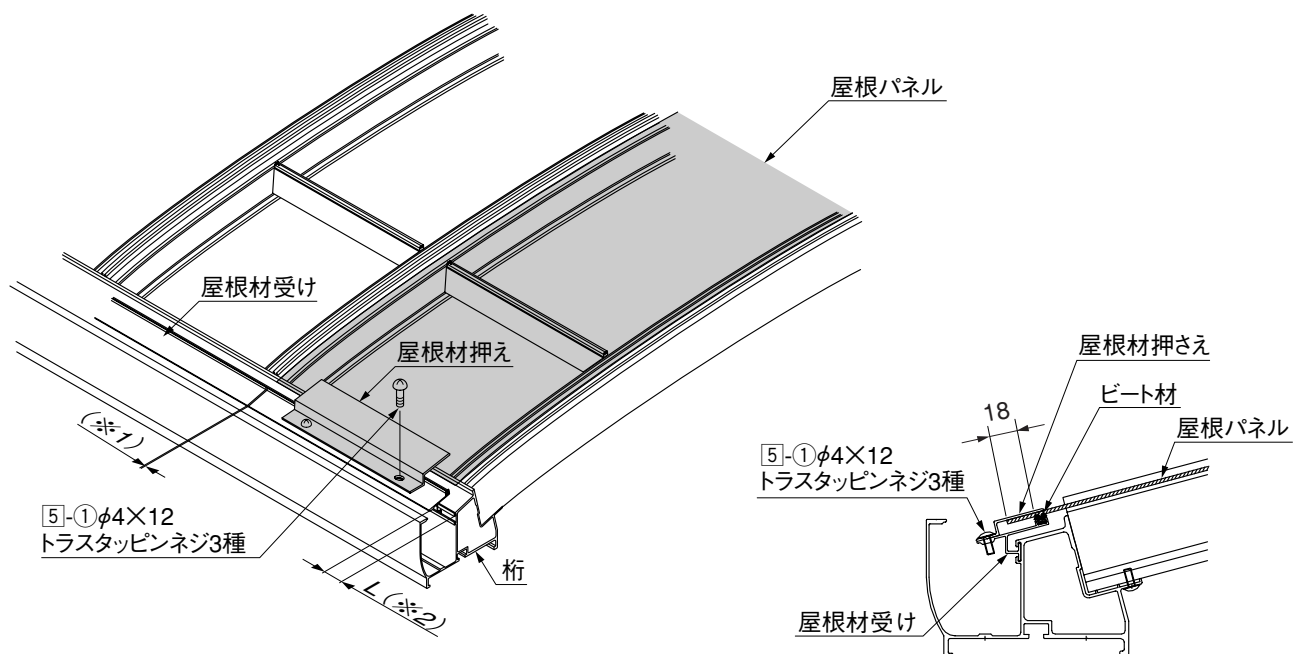


図9-1 屋根パネル納まり図

- ❶ 桁に取付いている屋根材受けの隣同士のすき間(※1)をなくしてください。
- ❷ 桁端部から屋根材受けまでの距離L(※2)を両側で均等にしてください。
- ❸ 屋根パネルを乗せて、屋根材受けのビート材から約18mmずつ出る位置に置いてください。(図9-1参照)
- ❹ 屋根材押さえを屋根材受けに[5]-①で取付けてください。

9. つづき

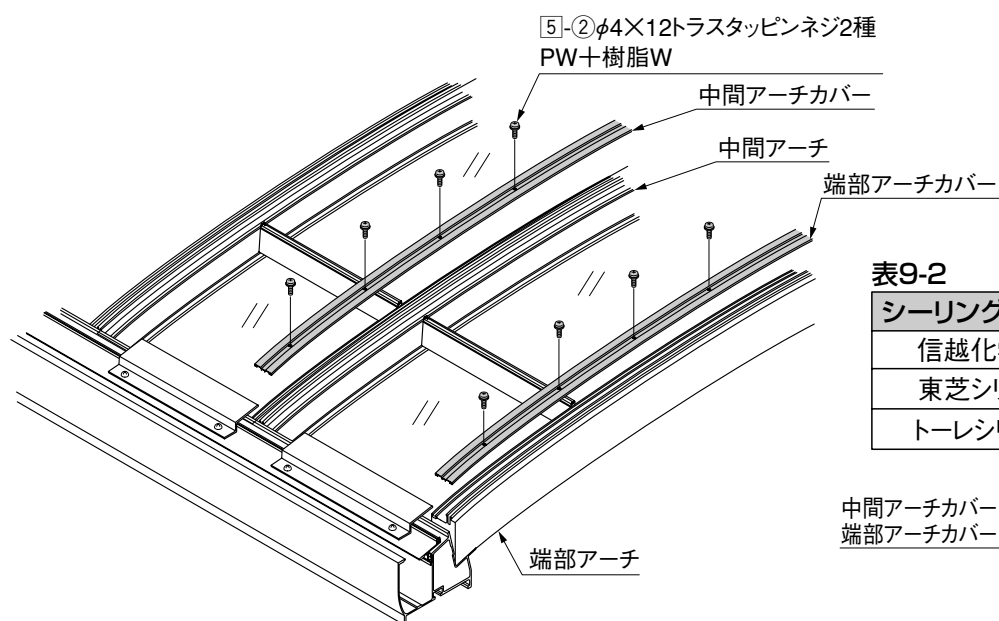


表9-1

サイズ	L
W24	23
W27	21
W30	28

表9-2

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
東芝シリコン	トスシール380
トーレシリコン	SE960

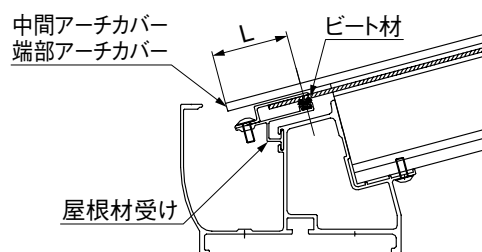


図9-2 中間アーチカバー、端部アーチカバー納まり図

- ① 表9-1を参照して、中間アーチカバー、端部アーチカバーを中間アーチと端部アーチに⑤-②で取付けてください。(図9-2参照)

補足

- アーチカバーの周囲にシーリングする場合は、弊社指定のシーリング材を使用してください。(表9-2参照)

10. 巾木の取付け ※ナチュラルスタイルの場合の作業です。

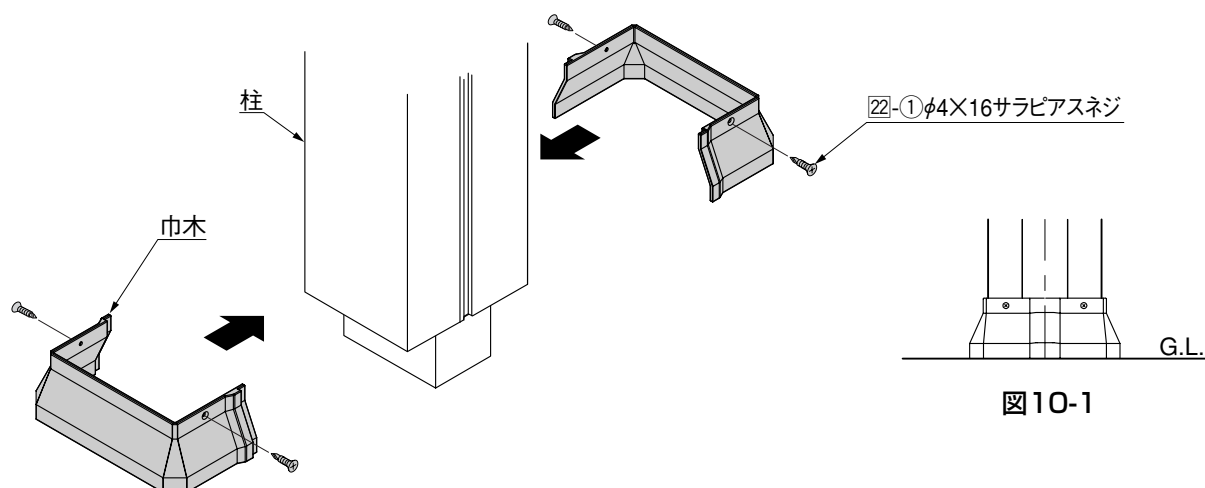


図10-1

- ① 巾木をG.L.にあわせて②②-①で柱に取付けてください。(図10-1参照)

11. 横樋の取付け

11-1 横樋の組立て

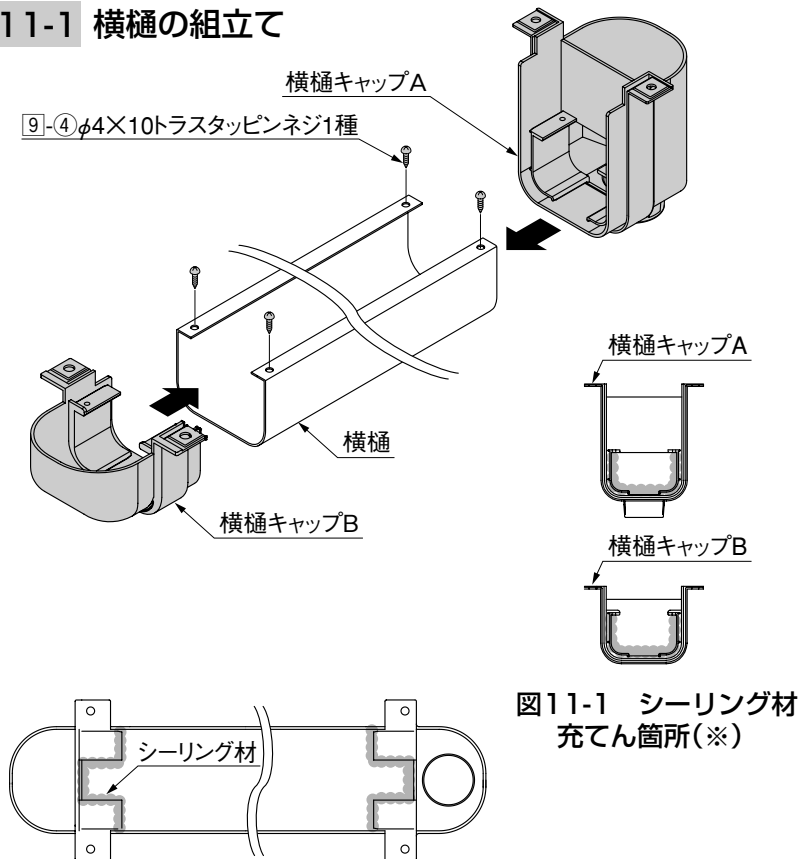


図11-2

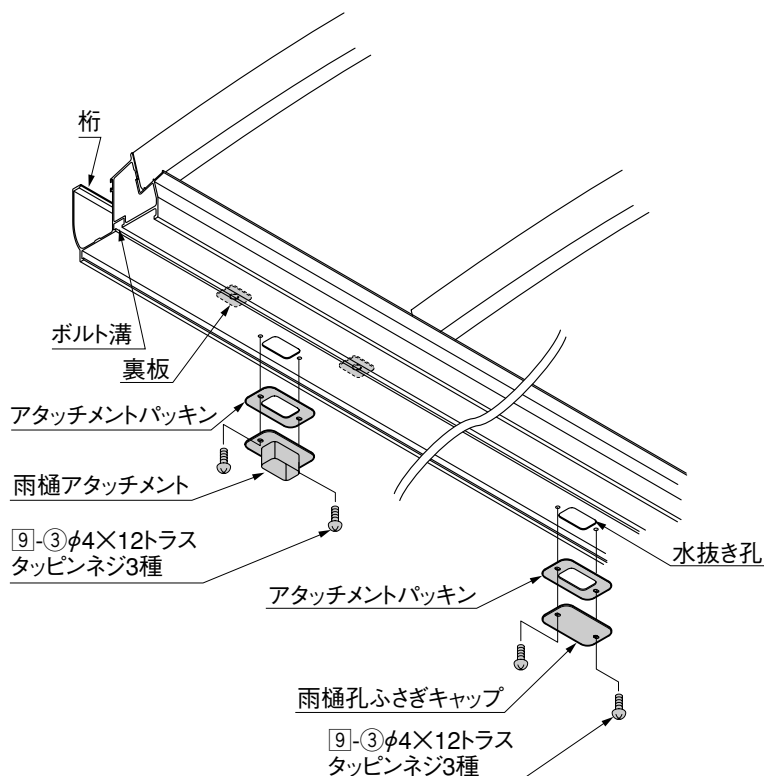
- 1 横樋キャップAと横樋キャップBにシーリング材を充てんして、横樋に差込み9-4で取付けてください。(図11-1参照)

- 2 横樋キャップAと横樋キャップBの内側にシーリング材を充てんしてください。(図11-2参照)

ポイント

- 指定の個所にシーリングしてください。(※)
- 同梱のブチルシーリングを使用してください。
- シーリング材を十分充てんしていないと雨水がもれるおそれがあります。

11-2 雨樋アタッチメントの取付け



- 1 桁の横樋を取付ける方の水抜き孔に雨樋アタッチメント、アタッチメントパッキンを9-3で取付けてください。
- 2 桁の横樋を取付けない方の水抜き孔にアタッチメントパッキン、雨樋孔ふさぎキャップを9-3で取付けてください。

11. つづき

11-3 横樋の取付け

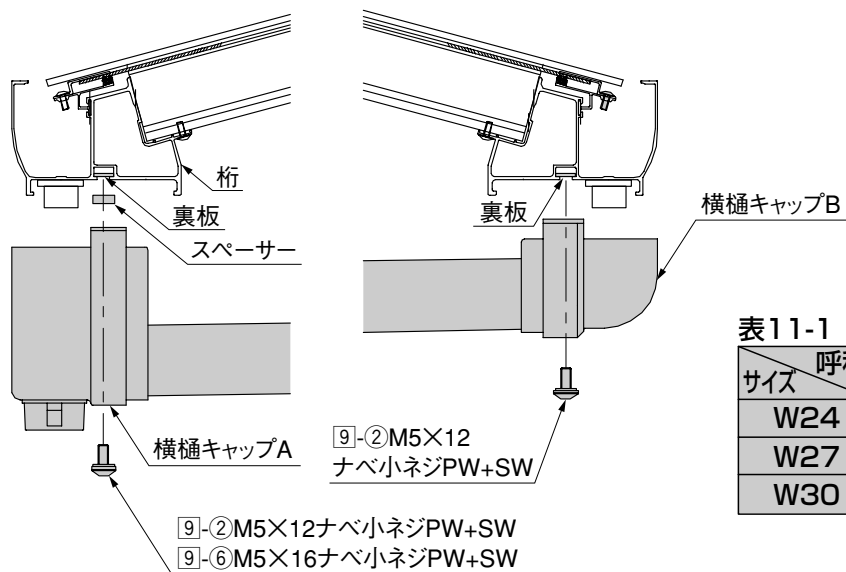


表 11-1

サイズ	呼称	ネジ名	スペーサー
W24		9-②	無
W27		9-⑥	有
W30		9-⑥	有

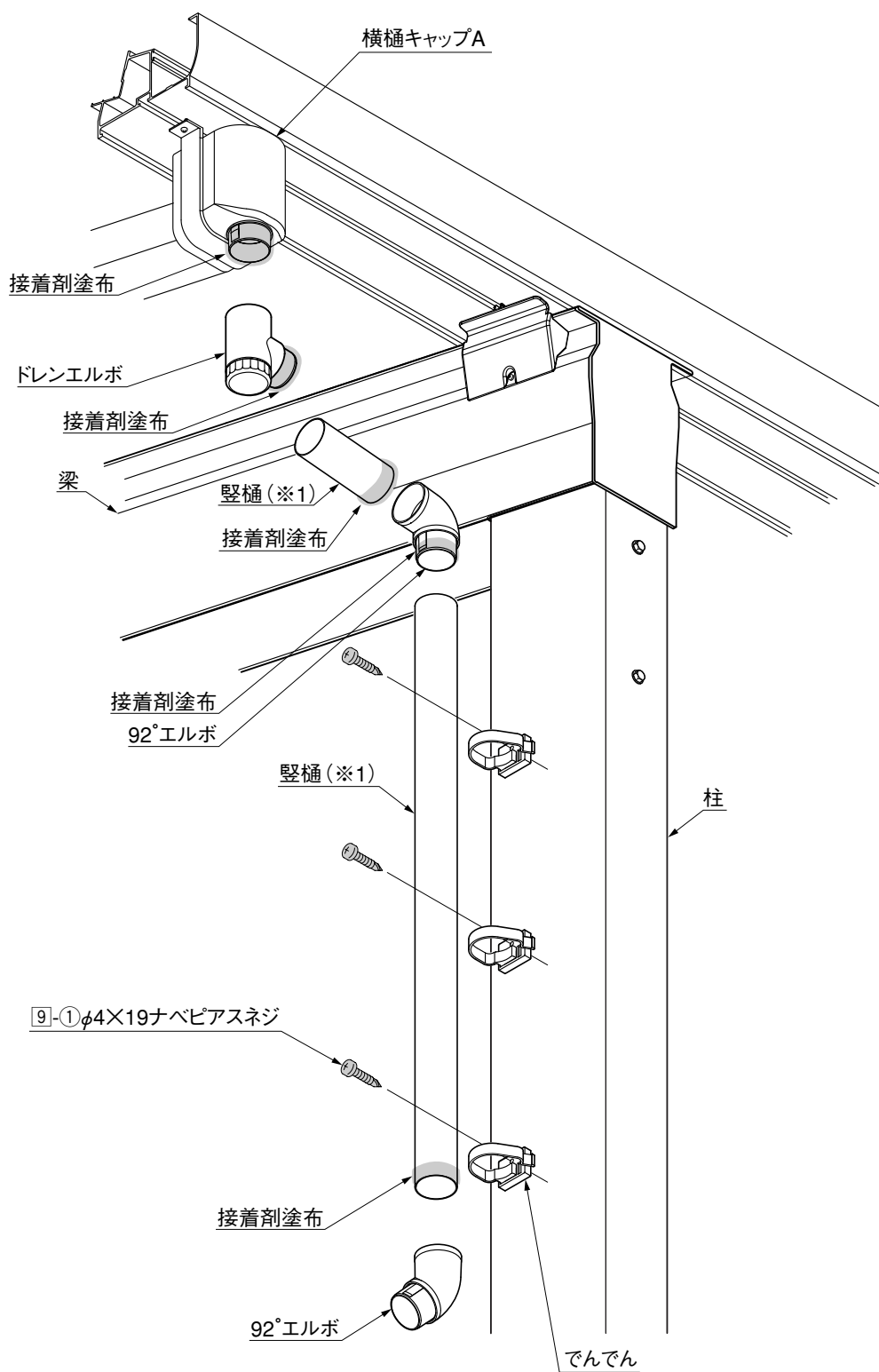
- ① 横樋キャップAと裏板の間にスペーサーをはさみ込み9-②、9-⑥で取付けてください。(表11-1参照)

ポイント

- W24型にはスペーサーは使用しません。(表11-1参照)
- ② 横樋キャップBを裏板に⑨-②で取付けてください。

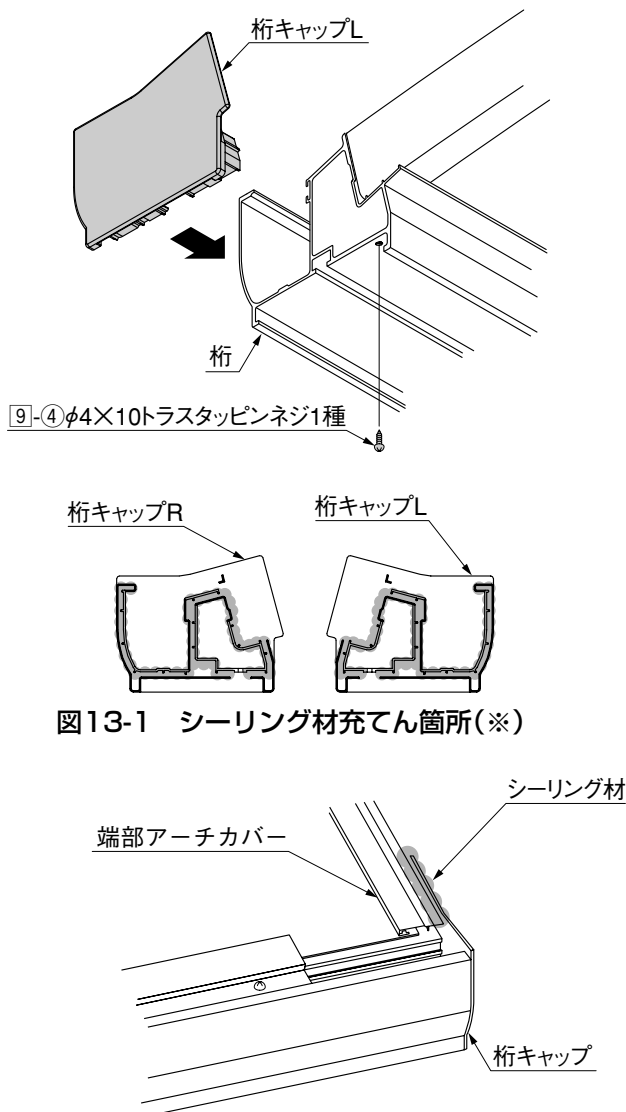
メモ

12. 縦樋の取付け



- ① 縦樋(※1)は取付位置を確認して、現場加工をして使用してください。
- ② 横樋キャップAにドレンエルボ、縦樋、92°エルボを接着剤で取付けてください。
- ③ でんでんを柱に9-①で取付けてください。
- ④ 縦樋をでんでんに取付けてください。

13. 桁キャップの取付け ※桁キャップRも同様の作業です。



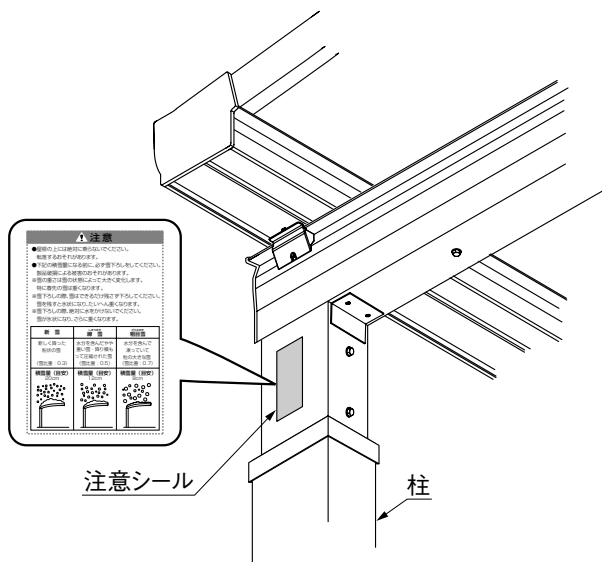
- ① 桁キャップLにシーリング材を充てんし、桁に取付けてください。
(図13-1参照)
- ② 桁キャップLと桁を9)-(4)で固定してください。

- ③ 桁キャップと端部アーチカバーとの隙間にシーリング材を充てんしてください。

ポイント

- 指定の個所にシーリングしてください。(※)
- 同梱のブチルシーリングを使用してください。
- シーリング材を十分充てんしていないと雨水が漏れるおそれがあります。

14. 注意シールの貼付け



- ① 必ず注意シールを柱の目立つ位置に貼ってください。

注意

- 注意シールは、施主様に安全に使用していただくために必要です。

3 縦連棟の施工方法

1. 基礎の施工

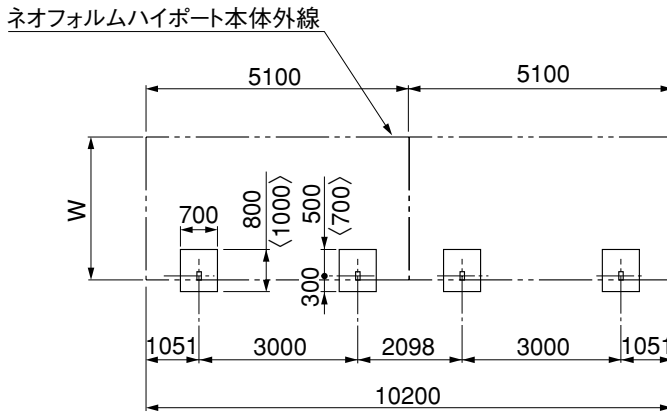


図1-1 奥行き51縦連棟タイプ

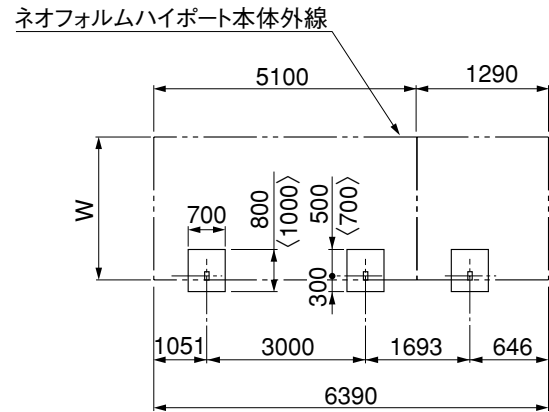


図1-3 奥行き51+13延長タイプ

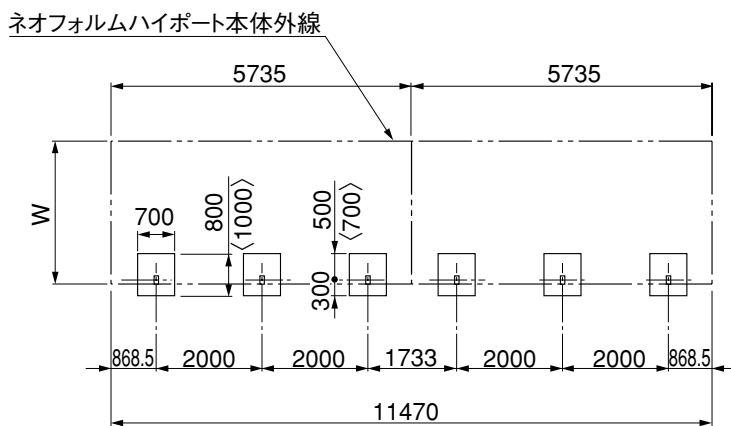


図1-2 奥行き57縦連棟タイプ

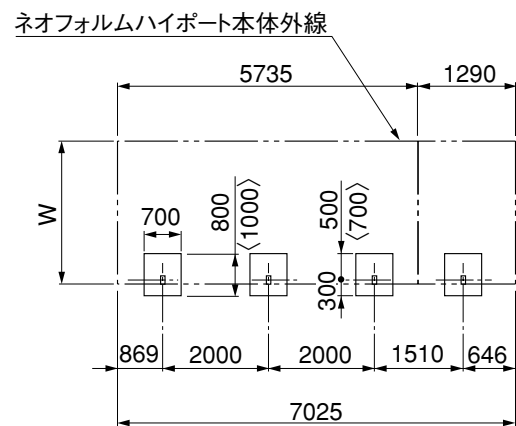


図1-4 奥行き57+13延長タイプ

表1-1

サイズ呼称	W
24	2414
27	2714
30	3014

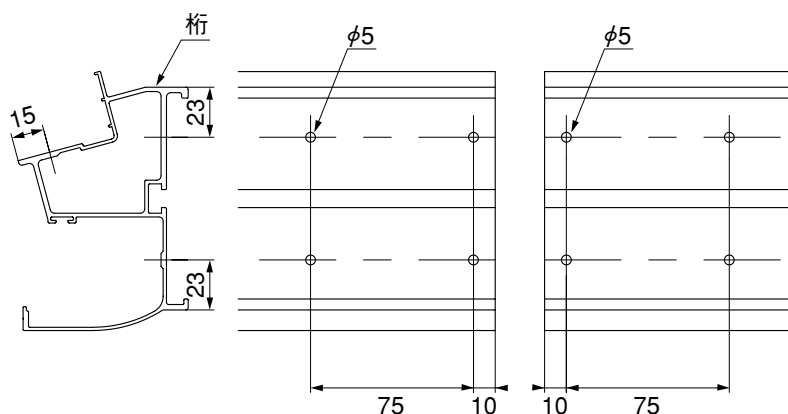
- ① 柱の埋込み位置を出して、基礎孔を掘ってください。

補足

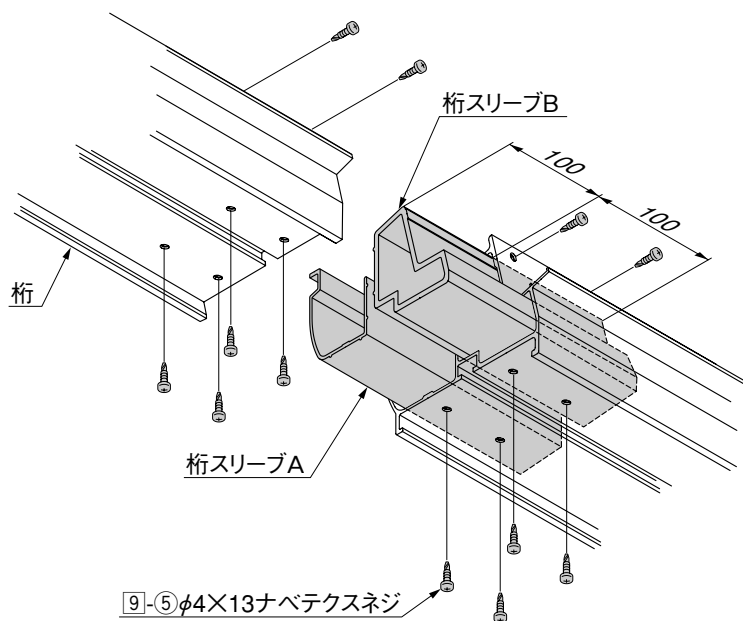
- 基礎構造については「1.基本寸法と各部の名称 2.基本寸法」を参照してください。
- 柱の移動は±100mm以内です。
- 〈 〉内寸法は30サイズの場合を示します。

2. 桁の連結

※端部アーチの取付け前に行なう作業です。



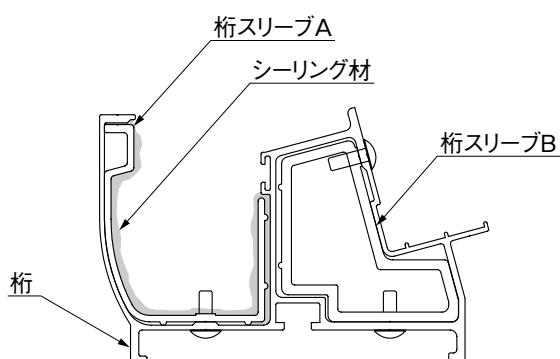
- ① 図を参照して、桁にφ5の孔を加工してください。



- ② 桁スリーブA, 桁スリーブBを桁に100mmずつのみこませて、[9]-⑤で取付けてください。

⚠ 注意

- 梁と桁を仮止めした後に行なってください。仮止めしていない場合は、桁が梁から落下して部材の破損やケガのおそれがあります。



- ③ 桁スリーブAと桁内側のすきまにシーリング材を充てんしてください

🔑 ポイント

- 指定の個所にシーリングしてください。
- 同梱のブチルシーリングを使用してください。
- シーリング材を十分に充てんしていないと雨水がもれるおそれがあります。

3. 連棟部分の組付け

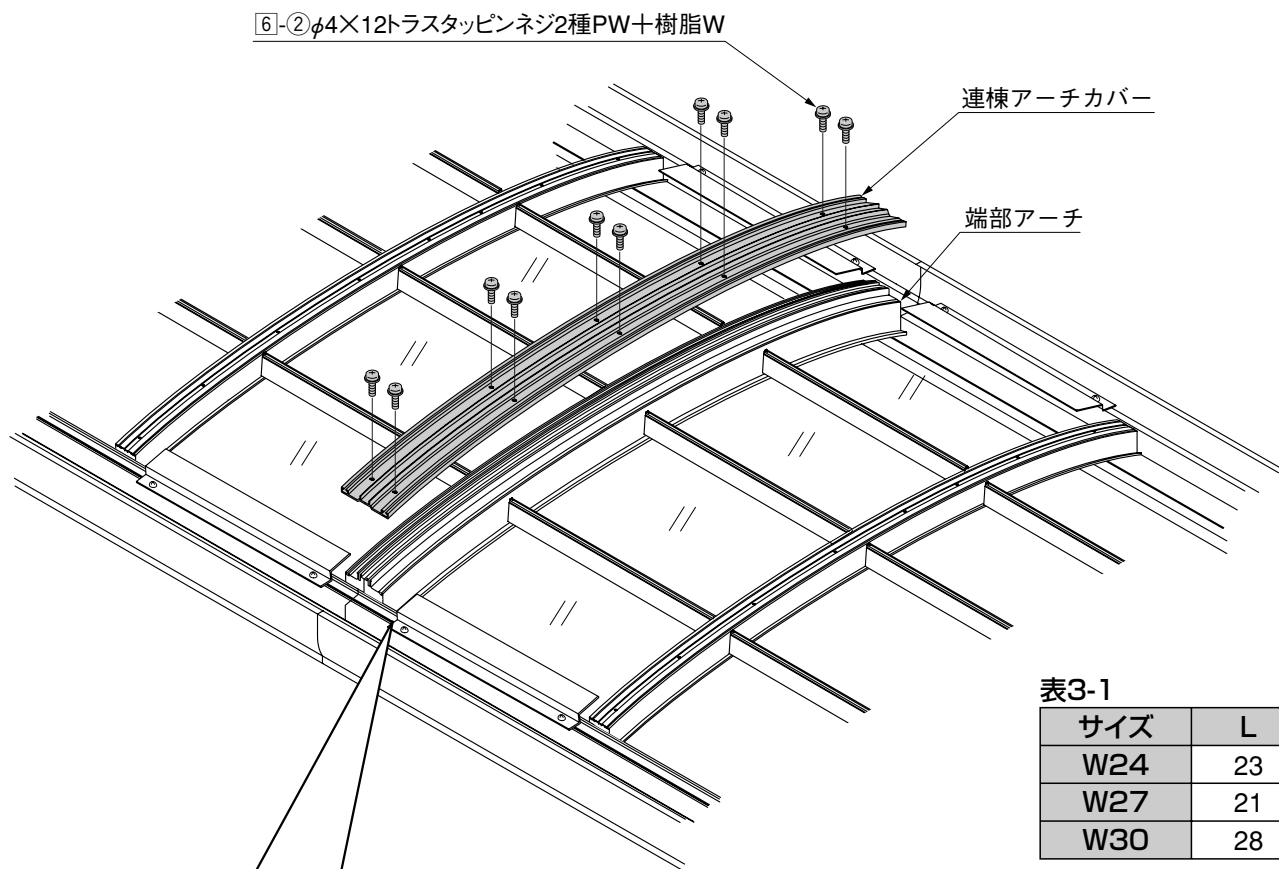
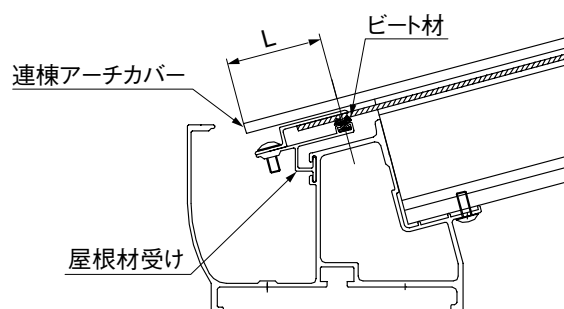
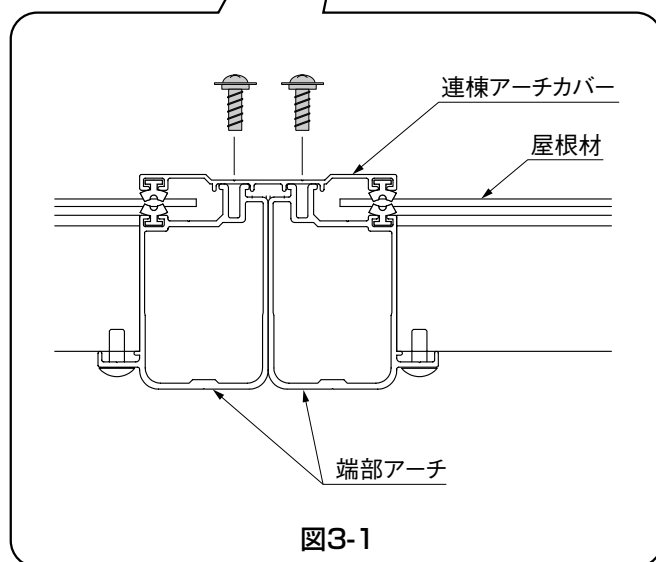


表3-1

サイズ	L
W24	23
W27	21
W30	28

表3-2

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
東芝シリコン	トスシール380
トーレシリコン	SE960



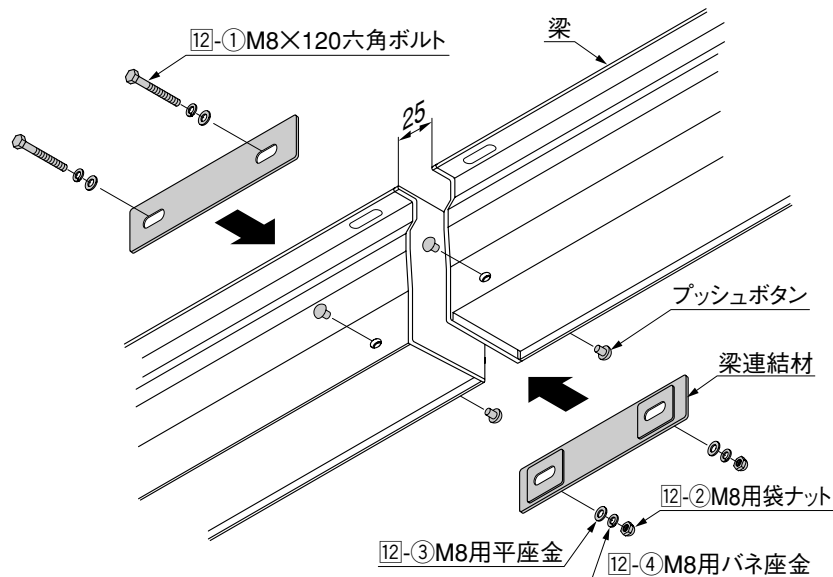
❶ 表3-1を参照して端部アーチに連棟アーチカバーを6-2で取付けてください。(図3-1, 図3-2参照)

補足

- アーチカバーの周囲にシーリングする場合は、弊社指定のシーリング材を使用してください。(表3-2参照)

4 M合掌の施工方法

1. 梁連結材の取付け



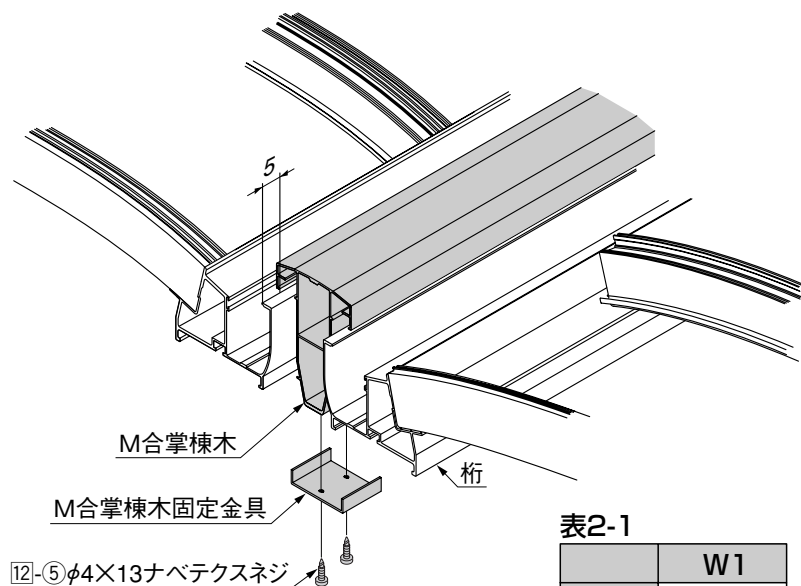
- ① 梁のプッシュボタンを取外して、梁連結材を12-①、12-②、12-③、12-④で取付けてください。

ポイント

- 梁と梁の間隔は25mmです。

4 2. M合掌棟木の取付け

※屋根パネル取付け前に行なう作業です。



- ① M合掌棟木を桁の上から取付けてください。(図2-1参照)

ポイント

- 桁の端部から5mmあけてください。

表2-1

	W1
L51	1500
L57	1300

- ② 図2-2を参照して、M合掌棟木固定金具をM合掌棟木に12-⑤で取付けてください。

ポイント

- L57の場合は中心にも取付けます。(※1)

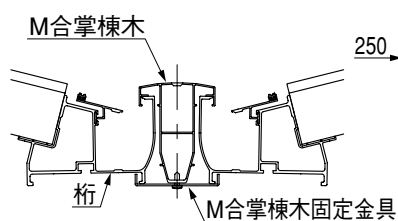


図2-1 M合掌棟木納まり図

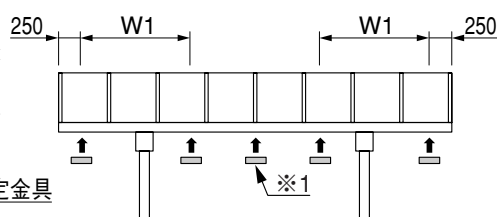


図2-2 M合掌棟木固定金具取付位置

3. M合掌キャップの取付け

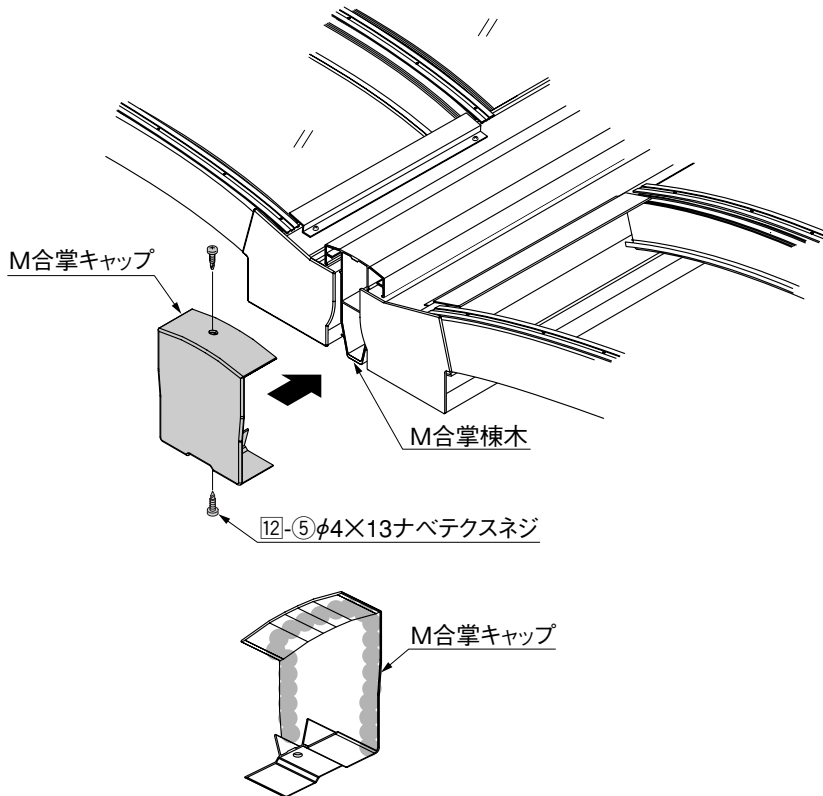


図3-1 シーリング材充てん箇所(※)

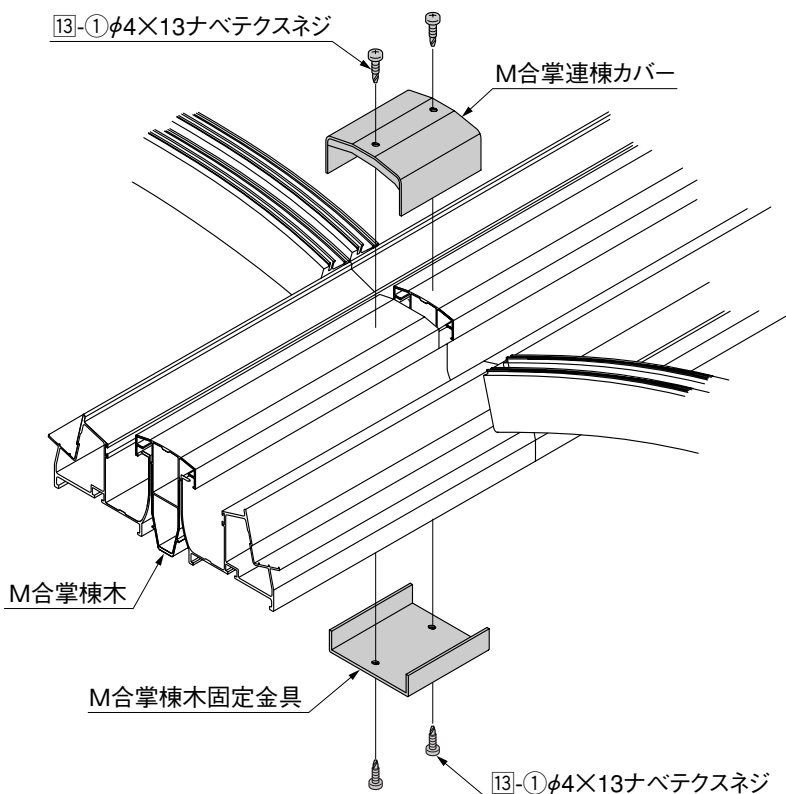
- 1 桁キャップ取付後、M合掌キャップの内側にシーリング材を塗布して、12-⑤でM合掌棟木に取付けてください。(図3-1参照)

ポイント

- 指定の個所にシーリングしてください。(※)
- 同梱のブチルシーリングを使用してください。

4. 縦連棟M合掌の場合の施工

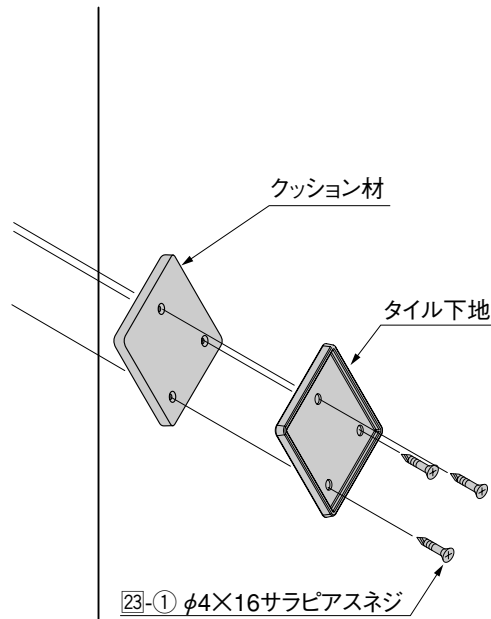
※屋根パネル取付け前に行なう作業です。



- 1 M合掌棟木にM合掌連棟カバーを13-①で取付けてください。
- 2 M合掌棟木固定金具を縦連棟部のM合掌棟木の隙間に13-①でM合掌棟木に固定してください。

5 タイル下地の取付け

1. タイル下地の取付け **オプション**



- ❶ タイル下地の裏側にクッション材を貼り付けてください。
- ❷ 柱化粧材の任意の位置にタイル下地を23-①で取付けてください。

補足

- タイル梱包内の取付説明書にしたがってタイルを取付けてください。